

第 3 編
統 計 編

第1章 病院事業統計

1 総括

区分		令和4年度	令和5年度				
			循環器系	呼吸器系			合計
				一般	結核	感染症	
外来	初診患者数 (1日平均)	4,525人 (18.6人)	2,479人 (10.2人)	2,047人 (8.4人)	-	-	4,526人 (18.6人)
	延べ患者数 (1日平均)	69,962人 (287.9人)	41,579人 (171.1人)	31,838人 (131.0人)	-	-	73,417人 (302.1人)
	実診療日数	243日	243日	243日	-	-	243日
入院	稼働病床数	343床	292床		30床	21床	343床
	入院患者数 (1日平均)	5,497人 (15.1人)	3,835人 (10.5人)	2,295人 (6.3人)	59人 (0.2人)	14人 (0.0人)	6,203人 (16.9人)
	退院患者数 (1日平均)	5,489人 (15.0人)	3,818人 (10.4人)	2,310人 (6.3人)	73人 (0.2人)	4人 (0.0人)	6,205人 (17.0人)
	延べ患者数 (1日平均)	73,992人 (202.7人)	48,177人 (131.6人)	29,015人 (79.3人)	3,445人 (9.4人)	35人 (0.1人)	80,672人 (220.4人)
	病床利用率	59.1%	72.2%		31.4%	0.5%	64.3%
	平均 在院日数	13.5日	12.6日		52.2日	3.9日	13.0日

2 外来患者数

(1) 月別外来患者状況

(単位：人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
診療日数	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	243
初診患者数	343	382	390	382	380	373	416	389	385	376	386	324	4,526
診療患者延べ数	5,925	5,846	6,397	6,083	5,906	6,138	6,698	6,032	6,326	6,190	5,754	6,122	73,417
1日平均患者数	296.3	292.3	290.8	304.2	268.5	306.9	319.0	301.6	316.3	325.8	302.8	306.1	302.1

(2) 診療科別外来患者状況(延べ数)

(単位：人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
循環器内科	1,881	1,805	1,977	1,836	1,792	1,811	2,135	1,803	1,986	1,844	1,745	1,876	22,491
腎臓内科	241	249	266	259	286	264	257	272	242	276	270	255	3,137
心臓外科	326	302	408	341	280	389	343	289	393	306	296	383	4,056
血管外科	617	638	627	655	602	619	674	576	589	605	543	531	7,276
放射線科	179	153	138	143	128	123	92	155	160	243	209	146	1,869
呼吸器内科	1,825	1,880	2,080	2,002	2,025	2,086	2,192	2,087	2,108	2,105	1,972	2,075	24,437
呼吸器外科	325	308	319	298	284	318	372	341	318	334	284	323	3,824
消化器外科	105	107	155	111	109	129	191	105	129	117	104	140	1,502
脳神経外科	408	379	396	422	383	387	429	386	388	347	317	377	4,619
リハビリテーション科	17	24	26	16	16	11	13	14	10	11	11	15	184
その他	1	1	5	0	1	1	0	4	3	2	3	1	22
計	5,925	5,846	6,397	6,083	5,906	6,138	6,698	6,032	6,326	6,190	5,754	6,122	73,417

3 入退院患者数

(1) 月別入退院状況

(単位：人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院患者数	472	484	504	506	522	518	509	546	564	570	521	487	6,203
退院患者数	474	480	502	504	530	511	523	522	641	468	527	523	6,205
死亡患者内数	20	18	19	12	24	21	26	28	24	29	39	29	289
月末在院患者数	190	194	196	198	190	197	183	207	130	232	226	190	-
入院患者延べ数	6,330	6,594	6,428	6,451	6,817	6,287	6,474	6,701	6,899	7,400	7,227	7,064	80,672
1日平均患者数	211.0	212.7	214.3	208.1	219.9	209.6	208.8	223.4	222.5	238.7	249.2	227.9	220.4
病床利用率	61.5%	62.0%	62.5%	60.7%	64.1%	61.1%	60.9%	65.1%	64.9%	69.6%	72.7%	66.4%	64.3%

(2) 診療科別入院状況

(単位：人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
循環器内科	191	194	200	182	202	192	184	223	227	195	185	192	2,367
	1,938	1,961	2,074	1,713	2,128	1,967	1,830	2,104	2,305	2,069	1,963	2,082	24,134
腎臓内科	5	3	6	4	8	9	7	11	9	9	9	4	84
	31	77	63	42	85	60	88	115	117	197	197	166	1,238
心臓外科	21	12	19	16	18	16	21	19	16	18	16	13	205
	509	522	536	707	587	423	417	433	496	574	539	614	6,357
血管外科	24	33	26	31	37	25	36	36	38	33	25	34	378
	460	508	309	303	374	268	356	323	357	378	292	361	4,289
呼吸器内科	118	136	153	165	171	176	150	147	169	198	164	134	1,881
	1,969	2,005	1,977	2,233	2,545	2,258	2,187	2,241	2,119	2,679	2,507	2,284	27,004
呼吸器外科	33	26	26	27	25	31	38	34	38	32	33	31	374
	328	293	326	362	340	356	474	378	480	349	430	341	4,457
消化器外科	6	12	14	7	10	4	9	12	7	10	14	8	113
	80	100	166	73	57	44	58	131	95	63	101	66	1,034
脳神経外科	74	68	60	74	51	65	64	64	60	75	75	71	801
	1,015	1,128	977	1,018	701	911	1,064	976	930	1,091	1,198	1,150	12,159
計	472	484	504	506	522	518	509	546	564	570	521	487	6,203
	6,330	6,594	6,428	6,451	6,817	6,287	6,474	6,701	6,899	7,400	7,227	7,064	80,672

※上段は実数、下段は延べ数。

4 放射線技術部統計

一般撮影

一般撮影部門の業務内容としては、胸腹部の単純撮影のほか、全身の骨撮影、病棟や手術室でのポータブル撮影、消化管造影、嚥下造影検査などを行っている。業務実績としては、総患者数は前年比102.0%と増加傾向で、区分別としては一般撮影室105.2%、手術室117.1%、消化管造影（嚥下造影）128.0%、内視鏡検査（気管支ファイバー）115.6%と増加がみられた。一方でCOVID-19患者を含む感染症撮影室は、前年比76.3%となっている。放射線技術部一般撮影部門としては、今後も誠意と熱意をもって質の高い医療と安全な医療の提供に努めていく。なお、内視鏡検査（気管支ファイバー、大腸ファイバー）は放射線技術師が検査に携わっている場合のみの集計とした。

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総患者数（人）		4311	4597	4635	4420	4570	4456	4603	4664	4956	5073	4642	4749	55676
一般撮影（感染症）	胸部	30	63	36	41	67	64	37	19	32	55	72	28	544
	腹部	1	2	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	6
	その他	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
一般撮影（本館棟）	胸部	3103	3279	3386	3146	3202	3170	3418	3444	3485	3532	3168	3329	39662
	腹部	146	163	178	170	191	161	168	186	177	168	172	184	2064
	頭部・顔面その他	23	12	23	9	15	11	16	12	22	9	6	13	171
	脊椎	21	19	18	17	8	5	9	7	10	10	4	6	134
	四肢・その他骨	12	8	11	4	5	7	10	12	10	9	10	7	105
	胸部	840	863	834	866	936	904	824	843	1025	1128	1029	1025	11117
病室撮影	腹部	70	116	70	99	78	54	56	66	100	83	101	85	978
	その他	2	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	2	7
	手術室	38	32	38	36	41	41	35	37	44	43	45	36	466
消化管造影	胃（食道を含む）	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	4
	注腸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他（嚥下）	7（7）	2（2）	4（3）	5（5）	3（3）	12（12）	12（11）	15（13）	11（11）	6（5）	12（12）	15（12）	104（96）
内視鏡	気管支ファイバー	24	38	40	31	24	38	30	38	49	36	35	32	415
	大腸ファイバー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

MRI

2023年度のMRI検査は、総患者数で前年度比103%、総件数で前年度比104%であった。前年度と比較して総患者数、総件数とも増加した。検査部位別では、頭部単純（104%）、頭部造影（113%）、頸部（106%）、腰部（140%）、胸部（208%）、心臓（106%）が増加した。腹部と四肢は減少した。また、本年度も当直時間帯における緊急MRI検査施行体制を1年間を通して維持し、573人に対してMRI検査を施行した。当直時間帯におけるMRI検査患者数は前年度比166%と大幅な増加であった。MRI検査は診療時間の枠を超えて高度専門医療の提供による患者サービスの向上に貢献できたものと思われる。

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総患者数	398	393	408	385	361	404	428	406	379	384	396	401	4743
総件数（件）	639	619	629	625	576	629	669	622	585	586	630	633	7442
頭部	305	296	302	308	276	293	315	292	276	268	296	304	3531
造影	57	58	56	42	46	70	71	67	72	70	49	62	720
頸部	241	226	221	240	215	225	241	216	206	202	234	232	2699
単・造													
頸椎	3	2	3	0	2	4	0	3	3	2	4	1	27
単・造													
胸椎	0	2	1	0	2	2	0	1	1	1	3	1	14
単・造													
腰椎	2	4	3	1	4	3	5	6	1	5	4	0	38
単・造													
[脊椎]	5	8	7	1	8	9	5	10	5	8	10	2	75
単・造													
胸部	4	2	8	2	3	7	2	7	3	7	3	2	50
単・造													
心臓	21	24	23	21	20	21	24	22	21	22	22	22	263
単・造													
腹部	1	0	1	3	2	0	2	1	0	1	1	2	14
単・造													
骨盤	1	2	2	0	1	0	3	1	1	3	2	3	19
単・造													
四肢	4	3	9	8	5	4	6	6	1	5	12	4	67
単・造													

CT

CT室はDiscovery750HDCT（GE）とIQon Spectral CT（Philips）の2台体制で検査をおこなっている。土日休日夜勤帯は主にDiscovery750HDCTを、日勤帯の冠動脈、PreTAVI、左房はIQon Spectral CTにて行っている。

2023年度は、Covit対応の件数も低下し、通常検査を滞りなく施行することができるようになった。

このことにより人数、件数ともに復調し、昨年度より5%程度上昇した。

CTは短時間で簡便に患者さんの全身状態が把握できることから、総件数に占める予外や急患の割合が高い検査である。

より柔軟に対応できるように努め、High Qualityな検査を提供していきたい。

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度	前年度比[%]
患者数（人）	1294	1306	1372	1351	1236	1308	1378	1330	1318	138	1271	1293	14595	14151	103
検査件数	2672	2743	2800	2765	2611	2815	2846	2758	2736	2851	2598	2649	32844	31368	105

【詳細】

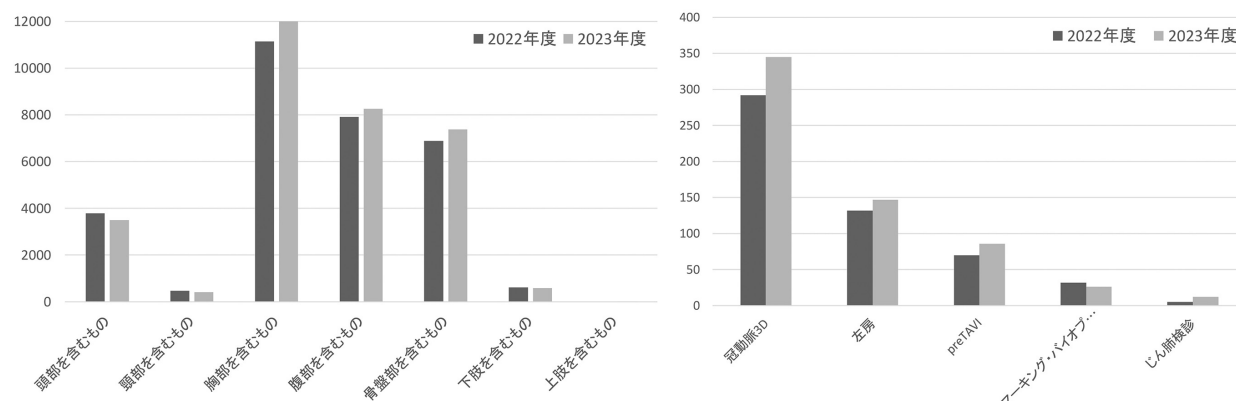
区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
頭部を含むもの	単純	258	263	255	263	210	225	290	248	247	280	265	255	3059
	造影	33	33	29	33	33	44	41	38	46	37	36	31	434
頸部を含むもの	単純	21	20	19	25	18	27	25	20	19	19	16	17	246
	造影	12	13	12	16	11	19	19	17	15	12	11	13	170
胸部を含むもの	単純	816	857	905	857	838	888	853	867	882	896	792	835	10286
	造影	149	138	137	138	131	140	166	156	147	172	153	158	1785
腹部を含むもの	単純	500	535	545	540	514	577	509	516	509	528	477	486	6236
	造影	173	158	162	148	152	159	197	177	167	183	176	178	2030
骨盤部を含むもの	単純	429	482	466	479	448	486	434	453	445	463	403	410	5398
	造影	170	156	156	146	149	159	191	173	162	177	172	174	1985
下肢を含むもの	単純	17	22	26	29	21	19	21	20	17	21	10	11	234
	造影	36	23	32	28	29	28	39	31	27	21	35	30	359
上肢を含むもの	単純	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	造影	0	0	0	0	2	0	0	2	0	1	1	0	6
冠動脈3D	造影	31	24	32	41	28	26	27	24	34	23	29	26	345
左房	単純	13	11	13	12	16	8	13	8	10	13	14	14	145
	造影	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
preTAVI	造影	10	5	9	10	6	4	10	6	7	4	7	8	86
マーキングおよび肺生検		4	2	2	0	1	6	2	2	2	1	1	3	26
じん肺検診		0	0	0	0	3	0	9	0	0	0	0	0	12

～集計方法～

- ・頭頸部3DCTAならば頭部1件、頸部1件 胸腹部骨盤部ならば胸部1件、腹部1件、骨盤部1件となる
- ・昨年度までの四肢末梢血管は「上肢を含むもの」と「下肢を含むもの」の合算となる

～注釈～

- ・左房とはカテーテルアブレーション術前後に行われる左房描出を目的とした検査のこと
- ・pre TAVIとはTAVI（経カテーテル大動脈弁植込み術）術前の大動脈弁およびアクセスルートの描出を目的とした検査のこと



血管造影

心臓カテーテル室、ハイブリット手術室および外科用イメージ装置を用いて、心臓カテーテル検査・治療、経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）、経皮的僧帽弁クリップ術（Mitra Clip）、経皮的大動脈弁形成術（PTAV）、慢性肺動脈血栓塞栓性肺高血圧症（CTEPH）に対するバルーン肺動脈形成術（BPA）、経皮的左心耳閉鎖術（Watchman）、脳血管内手術、経皮的脳血栓回収術、下肢・シャントPTA、カテーテルアブレーション、急性動脈閉塞に対する血栓除去術、ペースメーカー植込み・交換等の業務に従事している。

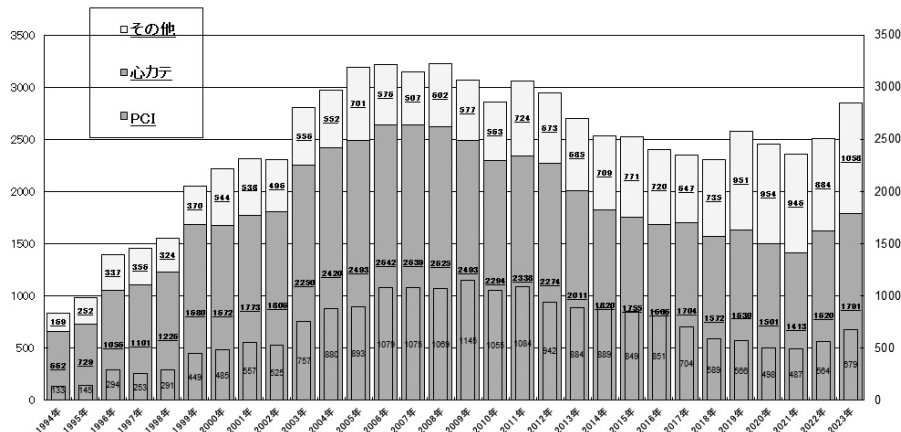
本年度はCOVID-19による受け入れ制限が解消され、積極的な患者受け入れにより、カテーテル総件数は前年比約14%増加した。内訳として、カテーテルPCIは約20%の増加、アブレーションは17%の増加、Mitra Clip、Watchmanも増加、頭頸部血管内治療は32%の増加、ステントグラフト内挿術は23%の増加、と全体的に概ね増加を示した。

2023年4月－2024年3月

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総 患 者 数	255	257	249	218	230	234	211	252	258	221	235	229	2849
心血管造影患者数	167	160	169	136	140	135	127	168	165	141	138	145	1791
診断カテーテル	106	89	105	94	86	81	90	106	104	88	81	82	1112
心血管 I V R（PCI）	61	71	64	42	54	54	37	62	61	53	57	63	679
POBA	61	71	64	43	54	54	37	60	60	53	57	62	676
ステント	52	66	56	35	53	49	35	57	55	50	55	58	621
ロータブレータ	8	1	5	3	5	4	2	6	4	1	0	4	43
ダイヤモンドバック	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
エキシマレーザ	3	2	4	0	1	2	0	1	3	0	3	1	20
DCA	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
PTCR	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
PTSMA	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
BPA	5	7	6	6	4	4	4	5	3	4	3	5	56
PTAV	1	1	3	4	2	2	1	2	3	1	3	3	26
TAVI	6	4	5	7	6	5	7	8	7	6	6	2	69
Mitra Clip	3	6	2	2	1	4	2	2	4	3	4	5	38
WATCHMAN	0	0	1	2	2	0	0	0	1	0	1	0	7
頭頸部血管造影患者数	25	25	22	18	21	26	25	25	20	17	31	27	282
造影検査（診断）	13	13	11	10	11	14	13	16	12	10	16	12	151
頭頸部 I V R	12	12	11	8	10	12	12	9	8	7	15	15	131
胸腹部末梢血管造影患者数	42	58	50	50	45	56	42	53	49	38	38	44	565
造影検査（診断）	16	19	20	19	20	15	14	18	14	12	10	17	194
胸腹部末梢血管 I V R	26	39	30	31	25	41	28	35	35	26	28	27	371
術中血管造影検査患者数	49	51	50	47	52	51	56	51	53	41	49	41	591
術中Cアーム透視＊	15	14	16	7	8	17	15	11	22	14	13	12	164
バルブシネ患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アブレーション患者数	17	14	17	11	20	16	14	14	15	16	12	17	183
EPS患者数	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	3
他院画像動画サバ取込み	5	2	1	3	3	4	1	2	5	2	4	3	35
心血管以外の I V R	38	51	41	39	35	53	40	44	43	33	43	42	502

＊）ペースメーカー透視含む。ペースメーカー詳細はオペ室の業績を参照してください

血管撮影人数の推移



超音波検査

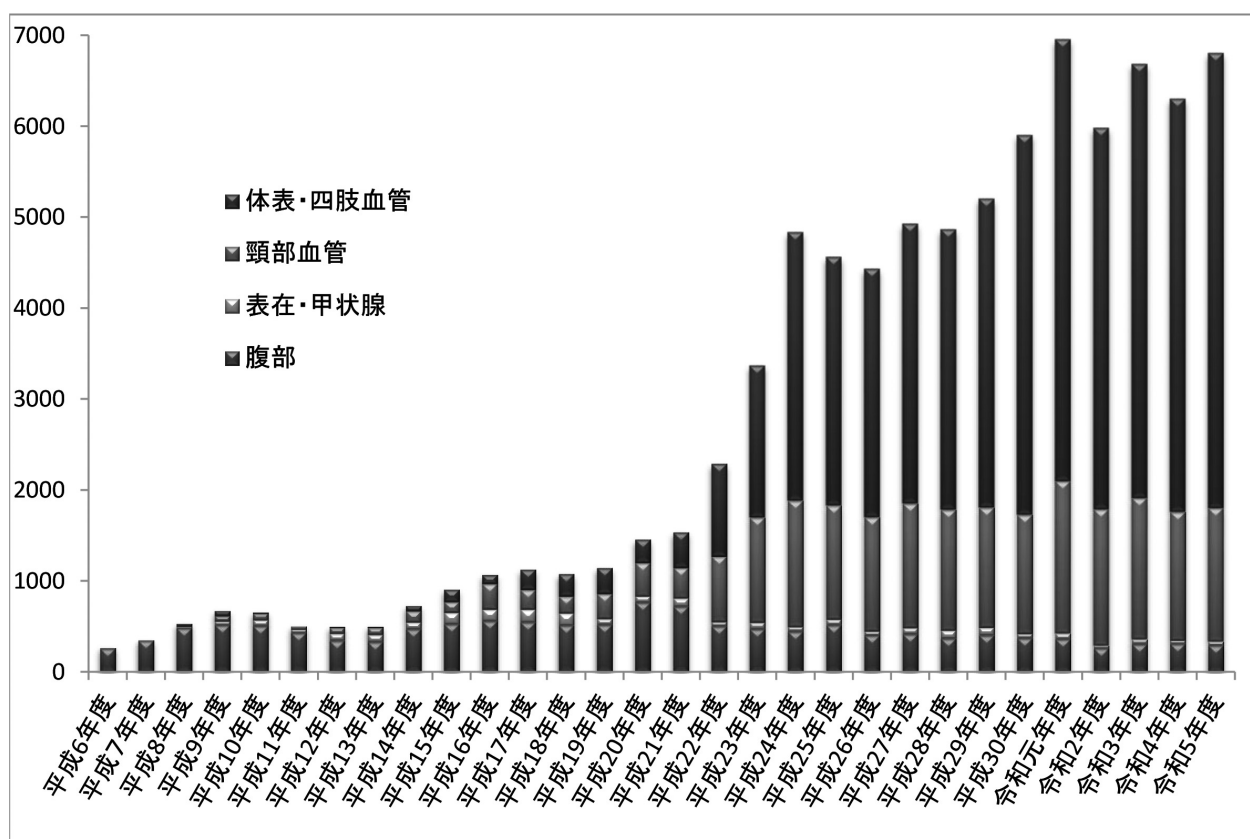
放射線技術部では心エコー、経食道エコーを除く腹部、甲状腺・乳腺、頸部血管、体部・四肢血管を行っている。体部・四肢血管とは、体部では腎動脈、ステントグラフト内挿術後評価、腹部大動脈分枝血管、四肢血管は透析シャントの評価や深部静脈血栓症（DVT）、下肢静脈瘤（Varix）、閉塞性動脈硬化症（ASO）、カテーテル検査前後の穿刺部の観察など、上肢・下肢動静脈の様々な検査を行っている。

前年度と比較すると総検査数が500件ほど増加し、体部・四肢血管の検査数が前年度比110%となった。

検査種別で見ると、循環器内科のカテーテル検査前に行うカテ前超音波検査（頸動脈、腎動脈、上下肢穿刺部）が大幅に増加した。次年度も医師の増加に伴い、カテ前超音波検査の増加が見込まれる。

次年度も予約枠などの運用面だけでなく、当日の予約外検査や緊急検査に柔軟に対応できるように超音波検査を行える技師の数をより増やし、検査の質が向上すべく努力していきたい。

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度比[%]	増減[%]
合計	601	566	585	511	641	527	586	611	585	510	556	525	6804	108.0	8.0
部位	腹部	21	20	20	27	30	23	38	27	20	22	23	293	95.1	-4.9
	表在・甲状腺	4	1	2	4	5	2	7	4	4	3	1	41	107.9	7.9
	頸部血管	153	129	139	109	132	101	113	119	92	126	117	1466	103.9	3.9
	体部・四肢血管	423	416	424	371	474	401	428	442	392	404	385	5004	110.1	10.1



R I

RI検査室業務総人数は前年度とほぼ同数（0.7％減）である。肺血流シンチが15％、負荷心筋シンチが49％、骨シンチが27％を占め当センターの特色を示している。負荷心筋シンチは注射とSPECT撮像を各々2回実施する安静負荷同日法のため、検査数は下表の4倍となる。患者数は骨シンチがガイドラインの変更により減少し、上記以外の検査が増加傾向で、ガリウムシンチおよび安静心筋シンチ（TL+BMIPP）の増加が目立ち、両検査とも前年より52％増加した。負荷心筋シンチは前年度より0.3％増加した。骨シンチは28％減少した。脳血流シンチは5％増加した。今年度はSPECT-CT機器更新作業のため1ヶ月間検査枠を縮小した期間があったが、検査減少は最小限であった。

(単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総 患 者 数	82	75	91	69	72	99	91	103	76	74	83	77	992
脳血流シンチ	3	1	1	2	2	3	4	5	2	3	2	4	32
安静心筋シンチ	0	1	0	1	0	1	1	0	1	1	1	3	10
安静心筋シンチ（TL+BMIPP）	17	19	21	12	16	12	19	17	17	16	22	20	208
負荷心筋シンチ（負荷安静同日法）	22	14	19	19	23	27	27	33	26	20	20	18	268
肺血流シンチ	15	11	20	15	7	15	13	15	9	10	9	10	149
肺換気シンチ	0	0	0	1	1	2	0	1	1	0	0	1	7
骨シンチ	21	23	30	17	21	33	21	23	19	18	23	16	265
ガリウムシンチ	2	6	0	2	2	6	6	8	0	6	4	2	44
副腎皮質・髄質シンチ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4
その他	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	1	5

放射線治療

2023年度は 新患者188人、脳定位照射 11人、肺定位照射 26人、腹部定位照射 3人、総人数2727人であった。7月でリニアック装置更新から丸1年が経過し、治療の内容も IMRT/VMAT など高精度な放射線治療にシフトしている。定位照射においては、昨年の4倍以上と大幅な増加がみられた。今後この傾向は、継続するものと思われる。定位照射以外を部位別にみると、1.胸部、2.乳腺、3.脳脊髄、4.骨軟部、5.泌尿器の順であった。1位の胸部は当センターの患者様が主体であるが、2位乳腺、5位泌尿器（前立腺）などは熊谷、行田、小川、秩父地方などの医療施設からの紹介である。そのため県北地域の放射線治療を行うことのできる認定施設として重要な役割を担っている。またこの統計にはないが放射線治療後フォローアップの診察も行われている。

(人数)

新患者188人/年

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (人)
総人数	250	202	192	246	240	120	201	273	228	290	298	187	2727
脳脊髄	12	14	15	42	62	18	49	67	32	8	12	5	336
脳定位照射	2	4	0	0	2	0	0	2	0	0	1	0	11
頭頸部	3	8	0	0	0	0	0	0	6	12	0	0	29
胸部	62	42	75	125	105	35	73	112	96	119	115	76	1035
肺定位照射	8	0	11	14	1	10	14	9	28	4	8	8	115
乳腺	47	48	24	55	57	44	0	19	4	98	82	33	511
食道	20	6	0	0	0	12	16	8	20	0	0	0	82
腹部	14	7	18	0	0	0	12	20	8	0	0	0	79
腹部定位照射	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	3	18
泌尿器	25	38	22	0	0	0	5	31	32	12	38	37	240
婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨軟部	57	35	27	10	13	1	17	5	2	37	42	25	271

5 検査技術部統計

令和5年度の検査件数は、1,603,025件で、前年度比104.7%であった。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）5類移行による診療体制回復の影響もあり、若干増加した。

各検査室の詳細は以下の通りである。

1) 生理検査

【生理検査全般】

総件数は、前年度比107.3%であった。年度別検査件数の推移（検査項目別）を示す。

年度別検査件数の推移（各検査項目別一部抜粋）

（単位：件）

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	検査件数推移	R5年度 前年度比 (%)
心電図	19740	17342	17760	19944	21246		106.5
ABI	3856	3662	4104	3694	3947		106.8
ホルター心電図	928	699	700	671	700		104.3
イベント心電図	352	272	280	299	319		106.7
マスター負荷心電図	466	243	190	175	217		124.0
トレッドミル負荷心電図	556	482	371	115	26		22.6
脳波	37	41	74	180	199		110.6
SPP	53	75	82	126	151		119.8
誘発筋電図（術中MEP）	45	100	108	101	120		118.8
体性感覚誘発電位（術中SEP）	72	70	96	95	100		105.3
一般肺機能	2872	2804	3058	3390	3806		112.3
特殊肺機能	1332	920	1026	1295	1263		97.5
気道可逆性試験	699	325	427	426	566		132.9
モストグラフ	460	169	158	134	277		206.7
呼気中NO濃度	813	366	447	488	612		125.4
簡易PSG検査	150	82	118	104	78		75.0
精査PSG検査	104	12	8	50	30		60.0
合計	33091	28146	29378	31402	33683		107.3

負荷心電図（トレッドミル）・PSG（簡易・精査）が前年度より検査数が減少した。トレッドミル検査が減少した原因としてガイドライン改訂によるものと考えられた。また気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患（COPD）の診断・病状の確認に必要とされる気道可逆性試験・モストグラフが増加した。R5年度5月より新型コロナウイルス感染症（COVID19）が5類感染症に移行された影響と考えられる。それ以外の検査は前年度と大きく変わらなかった。

R3年度より検査件数は右肩上がりである。今後も質の高い検査結果を提供しつつ、予約検査の待ち日数を減らす努力を行っていく。

【心エコー検査】

令和4年度の心エコー件数は10,539件、経食道心エコー件数は609件、総心エコー件数は11,148であった。総心エコーは前年比109%（+913件）の増加であった。検査項目もほぼすべて増加傾向である。

（表1、グラフ1）

経皮的動脈弁置換術（TAVI）と経皮的僧帽弁形成術（Mitral Clip）の合計実施件数は埼玉県下3位であった。（表2）

表1 各年度別件数推移（心エコー、経食道心エコー、総心エコー）

	R元年	R 2 年	R 3 年	R 4 年	R 5 年	前年比
心エコー	8,175	8,204	8,694	9,702	10,539	111%
経食道心エコー	497	444	487	533	609	114%
総心エコー	8,672	8,648	9,181	10,235	11,148	109%

グラフ1 各検査件数の推移

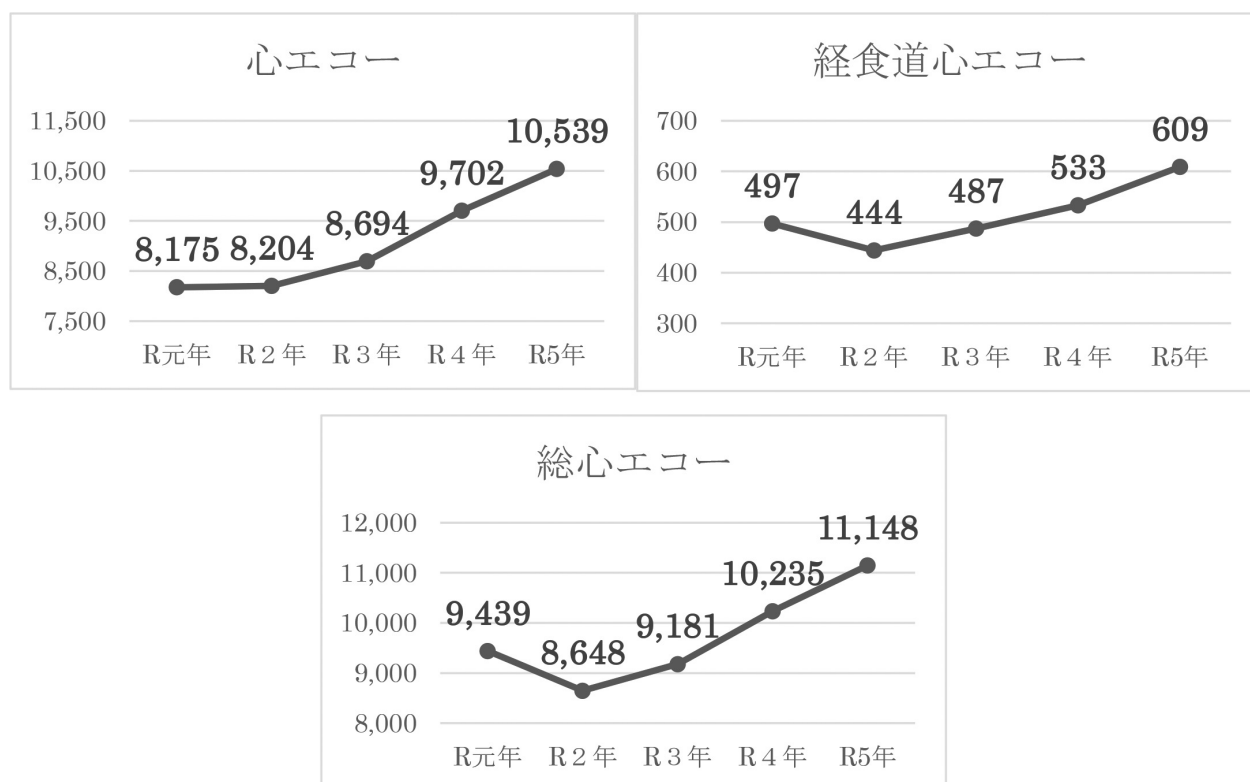


表2 特殊心エコー年度別件数推移（手術室心エコー、カテ室心エコー）

	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度
経皮的動脈弁置換術（TAVI）	36	65	69	69
経皮的僧帽弁形成術（Mitra Clip）	18	21	21	38
左心耳閉鎖術（Watchman）	2	0	2	7
経皮的動脈弁形成術（PTAV）	25	22	32	29
経皮的中隔心筋焼灼術（PTSMA）	3	2	1	1
経皮経静脈的僧帽弁交連切開術（PTMC）	0	1	1	0

2) 一般検査

R 2 年度に集計方法を変更したため、R元年度以前と比較すると大きく乖離している。インフルエンザ抗原とマイコプラズマ抗原はR2年度に細菌検査室へ移行。穿刺液検査はR 4 度12月より、血液検査へ移行。

令和5年度の総件数は16,267件で前年度比117.3%であった。尿検査（定性・沈査・他）は117.7%、便検査は114.6%、髄液検査は66.0%、抗原検査は118.8%であった。尿検査、便検査、抗原検査は昨年度と比べ、増加傾向にあった。新型コロナも落ち着き外来患者件数が増えたためと考えられる。髄液検査は減少しているがR 2 年度と比較すると大きな変動はない。

昨年度は尿沈渣でマルベリー小体も尿沈査で遭遇し、希少疾患のFabry病の発見にも繋がった。

今後も質の高い検査結果を提供しつつ、コストパフォーマンスも意識していきたいと考える。

表1 一般検査検体数の年度別推移

(単位：件)

	H31・R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	前年度比(%)
尿検査(定性・沈査など)	22,099	13,965	12,694	12,466	14,676	117.7
便検査	607	497	514	554	635	114.6
髄液検査	37	41	83	97	64	66.0
抗原検査	2,409	1,872	1,159	751	892	118.8
小計	25,152	16,375	14,450	13,868	16,267	117.3

表2 抗原検査の年度別推移

(単位：件)

	H31・R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	前年度比(%)
インフルエンザ抗原	957	325				
マイコプラズマ抗原	452	204				
尿中肺炎球菌抗原	515	675	583	376	449	119.4
尿中レジオネラ抗原	485	668	576	375	443	118.1
小計	2,409	1,872	1,159	751	892	118.8

3) 生化学検査

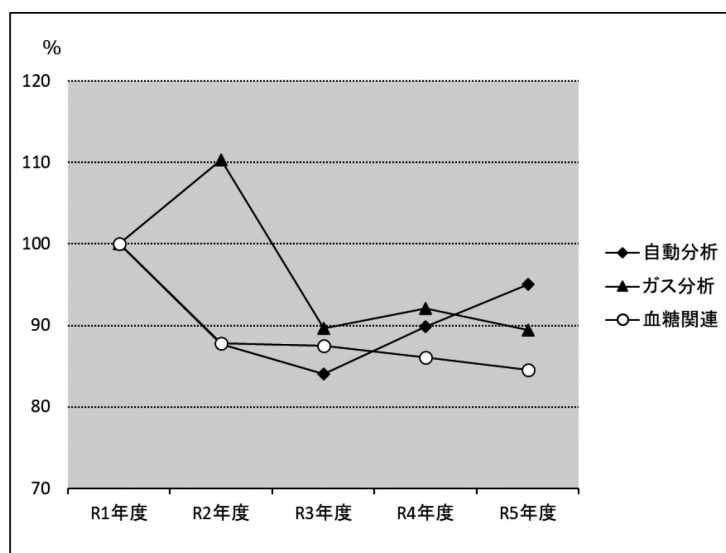
生化学総検査件数は1,163,107件で、前年度比+5.5%の増加であった。過去5年間の分類別検査件数(表1)と令和元年度を100とした主要分類別件数の推移(図1)をそれぞれ下に示す。分類別では、『自動分析』は1,112,633件(前年度比+5.8%)、『ガス分析』は3,921件(前年度比-2.9%)、『生化その他』は85件(前年度比-4.5%)、『血糖関連』は46,468件(前年度比-1.8%)であった。

新型コロナウイルス感染対策の偏移、各診療科の新体制構築等に伴い、総検査件数は僅かずつではあるが増加の傾向がみられた。

令和4年10月、日夜勤緊急検査用生化学自動分析装置の更新作業を若手職員が中心となっておこなった。緊急検査エリア全体のレイアウト・改善への取り組みをおこない、業務効率の向上にも大きな成果を認めた。今後も患者様第一を念頭に、専門病院として診療科のニーズに対応できるよう、日々の検査業務に努めたい。

【表1】 過去5年間の分類別検査件数

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
自動分析	1,170,629	1,026,510	983,282	1,051,416	1,112,633
蛋白分画	287	174	0	0	0
ガス分析	4,383	4,834	3,927	4,037	3,921
生化その他	132	113	82	89	85
血糖関連	54,980	48,279	48,122	47,320	46,468
合計	1,230,411	1,079,910	1,035,413	1,102,862	1,163,107

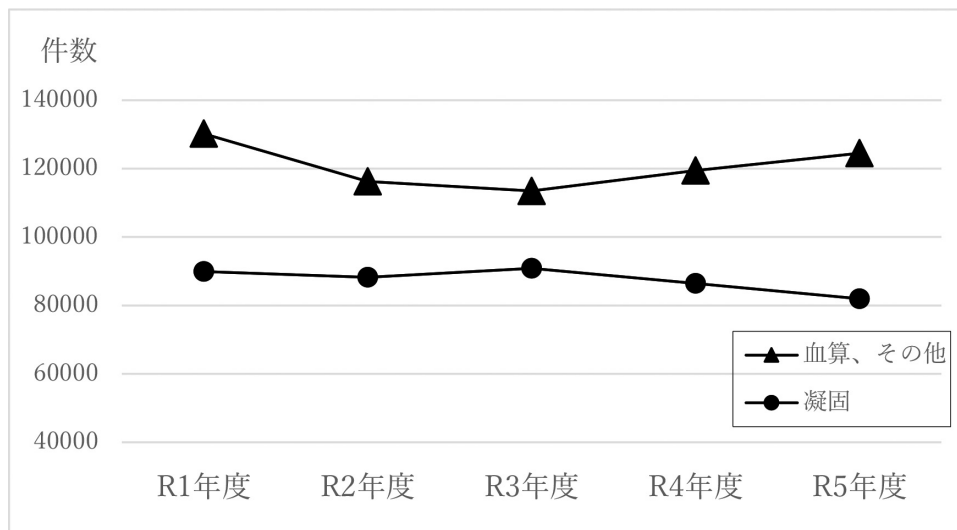


【図1】 過去5年間の分類別件数の推移（R元年度を 100%とした比率）

4) 血液検査室

令和5年度の総件数は、206,482件であった。内訳は、血算・その他は124,495件、凝固は81,987件で、対前年度比は血算・その他は104.2%、凝固は94.9%となった。血算・穿刺液等は件数の増加が認められたが、凝固はアンチトロンビン、フィブリノゲン以外の項目はすべて減少した。

過去5年間の検査件数の推移



血算・その他の検査件数が増加したのは、新型コロナウイルスの5類への移行に伴う患者数の増加によるものと思われる。また、血算や百分率の増加の他に、穿刺液のHb、WBC、百分率の大きな増加が認められた。対前年度比は114.1%で、大きく増加した昨年度に引き続いて増加傾向が認められた。これは患者受け入れの変化などにより検査対象者が増加したものと思われる。

凝固はFDPとDダイマーが約10%減少した。これは、新型コロナウイルスの患者の減少によるものと思われる。アンチトロンビンは対前年度比が110.3%と増加を示し、令和3年度以前の検査件数に回復した。

今後も迅速かつ正確な検査結果を提供し、臨床の要望を取り入れた新規項目の導入にも積極的に取り組みながら診療支援につなげていきたい。

過去5年間の凝固検査項目別件数

	R1	R2	R3	R4	R5
APTT	25, 871	25, 360	27, 124	25, 583	24, 175
PT	36, 423	34, 670	36, 533	34, 245	32, 731
FIB	8, 468	8, 488	7, 455	7, 461	7, 688
AT	492	463	416	390	430
FDP	4, 492	3, 790	2, 937	2, 204	1, 993
Dダイマー	14, 100	15, 442	16, 296	16, 455	14, 948
合計	89, 846	88, 213	90, 854	86, 338	81, 965

5) 免疫血清検査

令和5年度の総件数は109,271件で前年度比 +2.0%の増加であった。過去5年間の分類別検査件数(表1)、令和元年度を100とした過去5年間の分類別件数の推移(図1)をそれぞれ下に示す。分類別では、『感染症』は33,654件(前年度比 +21.6%)、『腫瘍マーカー』は18,504件(前年度比 +14.9%)、『薬物血中濃度』は372件(前年度比 -20.2%)、『血清一般』は24,867件(前年度比 -13.0%)、『心筋マーカー』は31,874件(前年度比 +1.3%)であった。

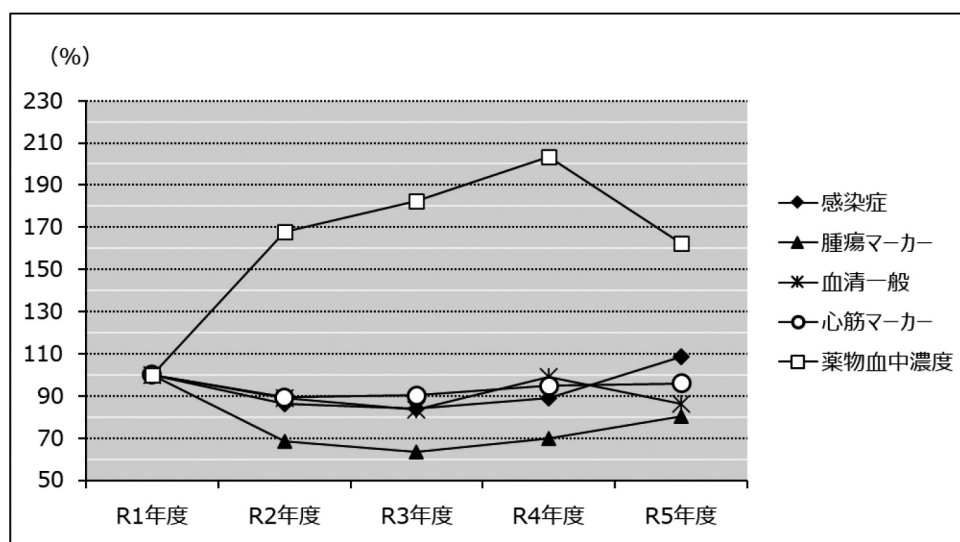
新型コロナウイルス感染症については、令和5年5月8日より感染症法上の位置づけが2類相当から5類に移行された。分類『感染症』に含まれるSARS-CoV-2抗原検査はそれまでの定量法から定性検査に移行した。11月からの導入で集計期間約5カ月間 3,381件であった。引き続き、感染防止対策への貢献に努めたい。

令和4年1月、血清採血管の統合と免疫検査材料を血清から血漿検体へ変更したことでTAT短縮や採血量削減が実現できた。さらには少数依頼項目の外注化、複数機種で測定していた免疫血清分析装置を集約し業務・経営改善を図った。

今後も、様々な視点から現行体制を見直し、経営・検査の質向上に努めたい。

【表1】 過去5年間の分類別検査件数

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
感染症	31, 050	26, 851	26, 024	27, 678	33, 654
腫瘍マーカー	23, 094	15, 831	14, 625	16, 105	18, 504
薬物血中濃度	229	384	418	466	372
血清一般	28, 882	25, 668	24, 186	28, 590	24, 867
心筋マーカー	33, 191	29, 655	29, 989	31, 469	31, 874
合計	116, 446	99, 314	97, 844	107, 111	109, 271



【図 1】 過去5年間の分類別件数の推移 (R元年度を 100%とした比率)

6) 輸血検査

令和5年度における血液型関連検査では、血液型検査が11,277件で前年度比106.9% (+726件)、不規則抗体スクリーニング検査が3,544件で前年度比103.9% (+133件)であった。

クロスマッチ関連検査は10,335件で前年度比106.6% (+637件)、血液製剤依頼数は2,981件で前年度比117% (+434件)であった。令和4年4月より未照射RBCを照射RBC-LRに変更したため、血液照射数は0件であった。

血液製剤使用単位数においてはRBC-LRが4944単位で前年度比111.9% (+526単位)、FFP-LRが2560単位で前年度比118.6% (+402単位)、PC-LRが8110単位で前年度比122.1% (+1470単位)とすべての製剤で増加した。

令和5年3月から照射RBC-LRの有効期限が21日から28日へ変更になったことにより廃棄率が5.56% (令和4年度) から2.33% (令和5年度) まで減少した。また、通常業務時間内だけでなく時間外 (当直時) における輸血検査の更なる安全性の向上を図り、輸血過誤防止を含めた安全な輸血療法の確立に努めた。

表1 輸血検査件数の年度推移

	R元年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度
血液型検査 (A B O、R h、直・間接ケムス)	9,615	10,151	10,032	10,551	11,277
不規則抗体スクリーニング	3,085	2,579	2,734	3,411	3,544
クロスマッチ関連検査	10,246	10,268	11,765	9,698	10,335
血液製剤照射	2,030	1,478	1,869	0	0
血液製剤依頼	2,606	2,566	2,910	2,547	2,981

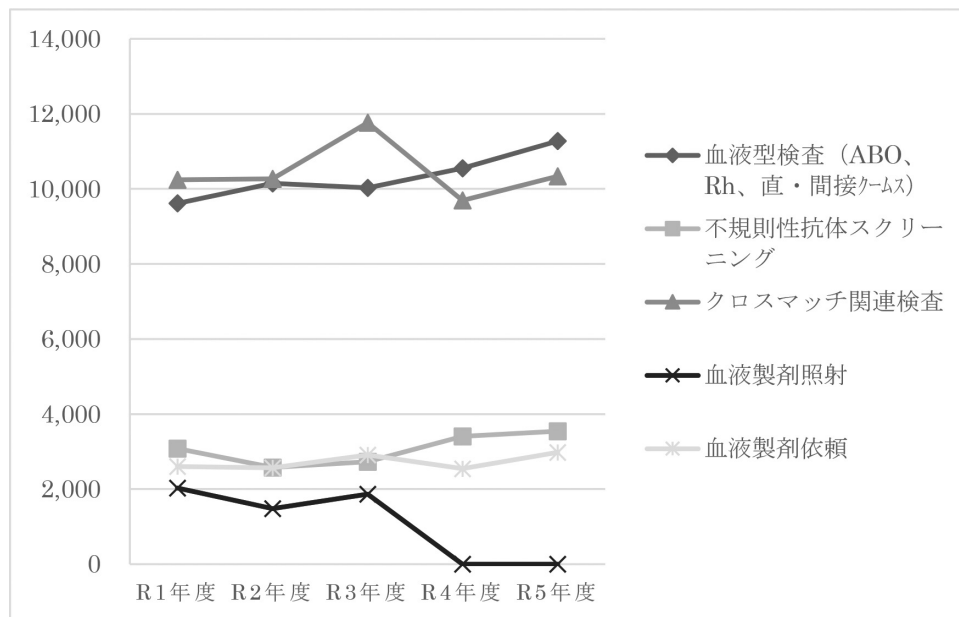


図1 輸血検査件数の年度推移

表2 血液製剤使用数の年度推移 (単位数)

	R元年度	R 2 年度	R3年度	R4年度	R5年度
R B C (RBC-LR)	4,876	4,428	5,528	4,418	4,944
F F P (FFP-LR)	2,966	2,584	3,344	2,158	2,560
P C (PC-LR)	7,125	6,375	9,790	6,640	8,110
自己血	0	0	0	2	4

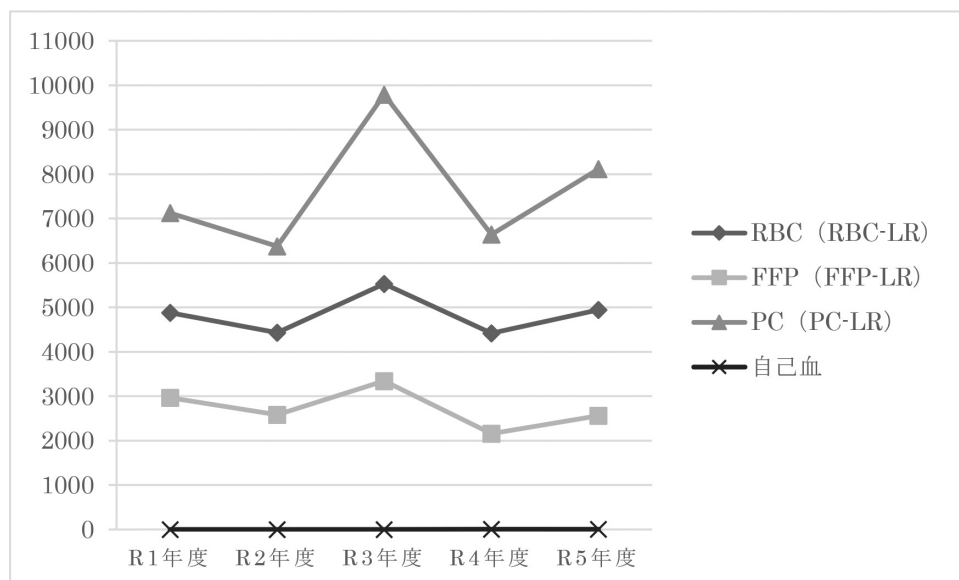


図2 血液製剤使用数の年度推移

7) 病理検査

表1に過去5年間の病理検査の依頼件数の推移を示す。令和5年度の総件数は4,047件であり、総件数は前年度比で105.1%であった。検査種別にみると、組織診依頼数は前年度比111.1%、細胞診依頼数は前年度

比96.4%、病理がん遺伝子関連検査は前年度比86.9%であった。病理件数の安定は新型コロナウイルス感染と通常診療の両立が図れるようになったためと思われる。

組織診検査では呼吸器系を主に、循環器系から血管や心臓弁、脳外科からの脳梗塞血栓の依頼がある。術中迅速病理診断は呼吸器外科手術において22.8%の症例について実施されており、術中の術式決定に大きく貢献している。免疫組織化学染色の実施された件数は347件であり、病理診断の根拠を高めるために必要不可欠なものとなっている。

細胞診は胸水などを含む呼吸器からの検体が主体で、全ての検体に対して遠心・塗抹・固定などの検体処理を行っている。また、細胞診検体を用いた遺伝子検査依頼も増加しており、残余検体がある場合はセルブロックの作製および保存に努めている。

病理がん遺伝子関連検査では、近年複数項目を同時に検出できる肺癌マルチプレックスが主流となっている。

病理解剖は2例の実施があった。これら通常検査および解剖のほか、他施設から呼吸器系疾患を中心としたコンサルテーション症例および呼吸器リファレンスラボ症例の受け入れ、研究のための標本作製やPCR検査等の補助業務も行っている。

感染症の遺伝子検査として、新型コロナのPCR検査を実施している。感染を疑う患者や転院患者に対象を絞って検査が実施され、2,686件の検査を実施した。11月より抗原検査に主体を変更したことにより、前年度比は38.8%と大きく減少した。

表1 病理検査の依頼件数の年度推移

区分 \ 年度		H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	前年比 (%)
総 件 数		5,828	4,722	3,143	2,967	3,851	4,047	105.1
総標本枚数		37,717	30,266	21,803	21,368	30,501	31,303	102.6
病理 組織 検査	件 数	1,371	1,119	835	820	1,148	1,275	111.1
	生検	659	502	375	360	458	498	108.7
	手術	492	514	452	457	542	639	117.9
	術中迅速診断	211	161	109	107	148	138	93.2
	合計標本枚数	17,575	13,524	10,202	10,857	16,463	19,983	121.4
	一般染色	7,101	5,681	3,904	4,106	6,074	6,689	110.1
	特殊染色	7,663	6,497	4,826	5,272	7,442	8,530	114.6
	免疫染色	1,508	1,346	1,472	1,479	2,947	4,764	161.7
細胞 診 検査	件 数	3,060	2,492	1,688	1,571	2,112	2,037	96.4
	合計標本枚数	20,142	16,742	11,601	10,511	14,038	11,320	80.6
	一般染色	13,732	11,276	7,639	6,941	9,100	7,466	82.0
	特殊染色	6,378	5,416	3,946	3,496	4,842	3,748	77.4
	免疫染色	22	50	16	74	96	106	110.4
組織診免疫染色件数		224	207	175	177	231	347	150.2
がん遺伝子検査件数		749	652	232	219	176	153	86.9
PD-L1検査件数		315	199	145	130	136	125	91.9
その他業務件数		109	51	67	47	44	108	245.5
解剖件数		4	2	1	3	4	2	50.0
コロナPCR検査件数			49	1,427	3,609	6,928	2,686	38.8

8) 細菌検査 (6/30)

令和5年度、依頼総件数は28,757件（前年度比 +2.7%）、稼働点数は 5,285,074点であった。（前年度比 -8.6%） 内訳は、一般細菌 17,689件（ -5.0%）、抗酸菌 11,068件（ +15.3%）であった。

R5 区分	2023年						2024年						合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
一般細菌	1,302	1,441	1,502	1,606	1,634	1,306	1,358	1,356	1,552	1,705	1,611	1,316	17,689
抗酸菌	738	839	832	1,002	1,010	1,009	894	930	986	1,013	1,001	814	11,068
合計	2,040	2,280	2,334	2,608	2,644	2,315	2,252	2,286	2,538	2,718	2,612	2,130	28,757

【一般細菌検査】



「主な前年度との比較」

- ① 一般鏡検数は4.8%の増加であった。
- ② 呼吸器系培養検査は、14.1%の増加であった。
- ③ 血液培養検査は、3.2%の増加であった。
- ④ 泌尿器系培養検査は、14.4%の減少であった。
- ⑤ その他培養検査は、46.4%の減少であった。
- ⑥ 薬剤感受性検査は1菌株 10.7%、2菌株 2.1%、3菌株 8.6%の増加であった。
- ⑦ SARS-COV-2 Lamp【コロナLAMP法】は、97.2%の減少であった。
- ⑧ フィルムアレイ（呼吸器パネル）検査は 128.0%の増加であった。
- ⑨ β-D-グルカン検査は 22.4%の増加であった。
- ⑩ SARS-COV-2 Lampは令和4年11月より結核患者専用、令和5年11月より廃止となった。
- ⑪ インフルエンザ抗原は令和4年12月より、マイコプラズマ抗原は令和5年11月より担当検査室が変更となった。
- ⑫ エンドトキシン検査は令和4年9月より外部委託となった。

【考察】

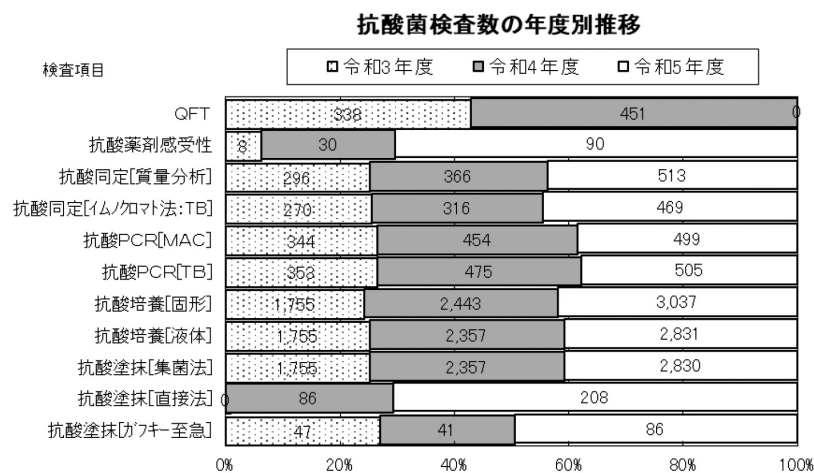
一般細菌検査総依頼件数は前年度比 5.0%の減少であった。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、各科診療体制の再構築により一般鏡検数と培養検査数は増加傾向にあるが、SARS-COV-2Lampの廃止、

インフルエンザ抗原とマイコプラズマ抗原の担当検査室変更、エンドトキシン検査外注化の影響が大きく、総依頼数は減少となった。

一般培養検査では、[その他]の減少率が高かった。手術部位感染等に関連する『開放膿』と『閉鎖膿』が大部分を占めており、心臓外科や血管外科の依頼数減少によるものと思われる。

マルチプレックス核酸検査法を用いた遺伝子検査『FilmArray』は導入3年目となり、特に呼吸器内科専用の呼吸器パネル検査（鼻咽頭拭い液に含まれる複数の呼吸器系ウイルス・細菌の核酸を同時・定性的に検出）が大幅に増加した。しかし、令和6年の診療報酬改定で算定条件が厳しくなったため、検査数は今後減少すると思われる。

【抗酸菌検査】



【主な前年度との比較】

- ① ガフキー至急検査は、52.3%の増加であった。
- ② 抗酸塗抹〔集菌法〕検査は、16.7%の増加であった。
- ③ 抗酸培養〔液体〕検査は、16.7%、同〔固形〕検査は、19.6%の増加であった。
- ④ 抗酸PCR〔TB〕検査は、5.9%、同〔MAC〕検査は、9.0%の増加であった。
- ⑤ 抗酸同定〔質量分析〕検査は、28.7%の増加であった。
- ⑥ 抗酸薬剤感受性検査は、66.7%の増加であった。
- ⑦ QFT検査は令和5年4月より廃止となった。

【考察】

抗酸菌検査依頼総件数は前年度比15.3%の増加であった。こちらも新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、呼吸器内科の診療体制が新型コロナウイルス蔓延前に戻りつつあることが要因と思われる。

QFT検査は患者検体のほか、年間250件程度の職員健診を実施していたが、試薬・機器保守を含めた検査体制見直しをおこない、令和5年度より外部委託によるT-SPOT検査へ変更となった。

抗酸同定〔質量分析〕検査の増加は、①非結核性抗酸菌症患者の増加②1患者から複数菌種を検出する症例の増加に加え、令和5年度より初回患者の同定検査を2回実施する運用に変更となったことも要因と思われる。質量分析装置（MALDI-TOF MS法）の普及により同定可能な菌種名が著増したことで、抗酸菌症における診療・疫学等への貢献が今後も期待できる。また、抗酸薬剤感受性検査の増加は、結核病棟の入院患者数増加に加え、外来通院されている非結核性抗酸菌症患者の依頼数増加が要因と思われる。抗酸同定〔質量分析〕検査と抗酸薬剤感受性検査はどちらも外部委託の検査であり、今後は院内導入も視野に中長期的な将来の検査体制づくりを考えていきたい。

6 薬剤部統計

1) 調剤薬処方せん取扱数 [表-1]

区 分		合計	1日平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総 計	処方箋枚数	68,045	185.9	5,341	5,572	5,577	5,275	5,804	5,469	5,524	5,853	5,840	6,207	5,992	5,591
	薬剤件数	169,707	463.7	13,222	13,817	13,561	13,091	14,469	13,251	13,796	14,466	14,845	15,986	15,037	14,166
	延剤数	1,448,813	3,958.5	111,952	114,280	116,131	108,430	122,299	112,575	112,898	122,851	140,717	132,600	130,941	123,139
入院	処方箋枚数	66,457	181.6	5,206	5,433	5,433	5,142	5,671	5,327	5,390	5,732	5,702	6,068	5,874	5,479
	薬剤件数	165,722	452.8	12,878	13,496	13,179	12,767	14,127	12,917	13,464	14,179	14,438	15,664	14,748	13,865
	延剤数	1,335,571	3,649.1	102,158	105,790	104,079	101,032	112,793	102,048	104,155	115,682	124,938	124,052	123,601	115,243
外来	処方箋枚数	1,588	6.5	135	139	144	133	133	142	134	121	138	139	118	112
	薬剤件数	3,985	16.4	344	321	382	324	342	334	332	287	407	322	289	301
	延剤数	113,242	466.0	9,794	8,490	12,052	7,398	9,506	10,527	8,743	7,169	15,779	8,548	7,340	7,896

(入院366日、外来243日)

2) 予製剤数 [表-2]

区 分		合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
予製剤数合計		43,090	4,993	4,058	2,950	2,729	3,110	3,522	3,710	3,282	5,734	2,487	4,197	2,318
内 訳	散剤 (剤数)	4,024	488	216	294	336	318	322	210	206	546	224	354	510
	錠剤 (剤数)	37,457	4,325	3,786	2,555	2,241	2,684	3,031	3,321	2,974	4,952	2,119	3,716	1,753
	水剤 (剤数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外用剤 (剤数)	1,609	180	56	101	152	108	169	179	102	236	144	127	55

3) 院外処方箋枚数 [表-3]

	年度計	月平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処方箋枚数	37,625	3,135.4	2,997	2,924	3,134	3,024	2,997	3,143	3,281	3,089	3,374	3,206	3,158	3,298
処方箋発行率	95.9%	—	95.7%	95.5%	95.6%	95.8%	95.8%	95.7%	96.1%	96.2%	96.1%	95.8%	96.4%	96.7%

4) 処方せん変更件数 [表-4]

変更項目	年度計	月平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処方日数調整 (変更)	409	34.1	31	26	18	28	29	30	40	37	49	42	34	45
用法の変更	215	17.9	8	9	7	0	9	9	6	14	12	9	80	52
用量の変更 (単位)	138	11.5	8	14	13	11	16	7	6	6	18	15	11	13
剤型の変更	32	2.7	1	5	2	1	4	4	7	4	0	0	2	2
薬の変更	333	27.8	10	12	16	9	20	13	61	41	75	21	30	25
薬品の追加	160	13.3	12	6	9	17	19	17	12	11	14	7	19	17
薬品の削除	219	18.3	14	22	12	21	18	9	21	21	23	19	20	19
処方の削除	11	0.9	0	0	1	0	2	1	3	3	0	0	0	1
院外へ変更	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
院内へ変更	3	0.3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0
コメント訂正	40	3.3	0	3	1	3	1	2	2	3	11	7	3	4
その他	448	37.3	23	17	22	15	17	23	31	50	69	50	64	67
合 計	2,008	167.3	107	114	101	105	135	116	189	190	271	172	263	245

5) 注射せん・薬品払出し等取扱数 [表-5]

区 分		合計	1日平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総 計	注射箋枚数	81,558	222.8	6,533	6,903	6,456	6,660	6,987	6,338	6,240	6,552	7,081	7,557	7,273	6,978	
	注射件数	253,266	692.0	19,883	21,726	20,146	21,508	22,874	19,614	19,042	19,762	21,505	23,898	21,915	21,393	
	薬品件数	55,216	150.9	4,545	4,486	4,544	4,470	4,780	4,344	4,319	4,436	4,810	5,075	4,704	4,703	
内 訳	入院	注射箋枚数	76,028	207.7	6,087	6,408	6,029	6,224	6,494	5,880	5,799	6,091	6,604	7,093	6,813	6,506
		注射件数	240,094	656.0	18,871	20,484	19,082	20,434	21,658	18,486	17,972	18,642	20,408	22,881	20,844	20,332
		薬品件数	53,513	146.2	4,423	4,354	4,424	4,318	4,662	4,198	4,172	4,296	4,633	4,928	4,565	4,540
	外来	注射箋枚数	5,530	22.8	446	495	427	436	493	458	441	461	477	464	460	472
		注射件数	13,172	54.2	1,012	1,242	1,064	1,074	1,216	1,128	1,070	1,120	1,097	1,017	1,071	1,061
		薬品件数	1,703	7.0	122	132	120	152	118	146	147	140	177	147	139	163

(入院366日、外来243日)

6) 医薬品情報の照会件数 [表-6]

1	医薬品の基本的情報 (名称、採用の有無等) について	11
2	医薬品の薬剤学的な情報 (配合変化、安定性など) について	11
3	医薬品の薬理学的な情報 (副作用、相互作用など) について	28
4	医療保険、一般用医薬品など上記以外の情報について	6
5	持参薬鑑別	7,085
6	トレーシングレポート (吸入薬)	256
合計		7,397

7) 薬剤管理指導業務 [表-7]

区 分	年度計	月平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院患者数	7,930	660.8	625	650	635	676	697	665	655	667	745	618	674	623
請求	患者数	5,660	471.7	341	480	519	512	509	461	450	478	514	478	460
	件数	7,170	597.5	525	605	618	631	654	566	590	604	629	612	551
指導件数	8,129	677.4	600	627	699	704	750	663	697	685	714	698	652	640
退院時薬剤情報管理指導件数	3,516	293.0	263	265	282	321	314	275	296	297	338	266	290	309
退院時薬剤情報連携加算	73	6.1	5	1	10	8	6	8	14	8	1	4	4	4
病棟薬剤業務実施加算加算1	12,768	1,064.0	959	1,078	1,039	1,021	1,139	1,004	1,068	1,076	1,036	1,170	1,137	1,041

8) 抗がん剤等混注取扱数 [表-8]

			合計	1日平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数			2,385	9.8	183	207	195	199	229	225	205	204	186	205	185	162
混注件数			3,250	13.4	245	271	258	285	315	300	282	274	252	278	269	221
内 訳	外来	患者数	1,318	5.4	97	121	117	114	127	118	111	119	101	102	94	97
		混注件数	1,699	7.0	130	156	150	145	158	156	144	156	130	130	122	122
	入院	患者数	1,067	4.4	86	86	78	85	102	107	94	85	85	103	91	65
		混注件数	1,551	6.4	115	115	108	140	157	144	138	118	122	148	147	99
混注件数（抗がん剤以外）			886	—	64	90	89	85	89	76	65	80	61	63	62	62
外来化学療法	指導件数		236	1.0	22	16	17	22	28	19	27	24	18	17	13	13
	連携充実加算算定件数		173	0.7	17	16	13	16	21	15	16	16	12	13	8	10
	トレーニングレポート枚数		100	0.4	19	10	6	6	7	9	7	13	5	8	5	5

※抗がん剤以外：制吐剤等の輸液

9) 薬剤委員会実績 [表-9]

回	開催年月日	採用医薬品					院内削除医薬品					差	
		内服	注射	外用	その他	計 (A)	内服	注射	外用	その他	計 (B)	(A) - (B)	
1	2022.05.25	5	4	0	0	9	2	0	1	0	3	6	
2	2022.08.31	9	7	1	0	17	0	7	1	0	8	9	
3	2023.09.28	6	1	4	0	11	7	1	4	0	12	-1	
4	2023.11.30	11	2	0	0	13	10	3	1	0	14	-1	
5	2023.01.25	6	4	2	0	12	6	4	2	0	12	0	
6	2023.03.22	4	3	3	0	10	8	1	1	0	10	0	
合 計		41	21	10	0	72	33	16	10	0	59	13	

10) 実施受託研究 [表-10]

区分	計	医薬品	医療機器	その他
① 治験	5	4	0	1
② 製造販売後臨床試験	1	0	1	
③ 製造販売後調査	19	15	4	
①、②、③以外の受託研究	12	0	9	3
計	37	19	14	4

11) 持参薬の鑑別 [表-11]

区 分	年度計	月平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院	件数	4,538	378.2	350	338	378	371	378	354	411	433	393	413	362
	剤数	29,938	2,494.8	2,387	2,202	2,368	2,619	2,363	2,303	2,752	2,875	2,695	2,698	2,339
外来	件数	2,547	212.3	210	238	230	209	207	196	203	203	226	213	193
	剤数	17,278	1,439.8	1,419	1,610	1,631	1,442	1,408	1,354	1,385	1,384	1,499	1,368	1,268
合計	件数	7,085	590.4	560.0	576.0	608.0	580.0	585.0	550.0	614.0	636.0	619.0	626.0	555.0
	剤数	47,216	3,934.7	3,806.0	3,812.0	3,999.0	4,061.0	3,771.0	3,657.0	4,137.0	4,259.0	4,194.0	4,066.0	3,605.0

7 看護部統計

表 1 看護部常勤職員年齢分布（令和5年4月1日）

年 齢	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	合計
人 数	158	100	109	59	5	431
構成比	36. 7%	23. 2%	25. 3%	13. 7%	1. 2%	100%

表 2 病棟別褥瘡予防対策及び発生報告（N=66965:入院延べ患者数）

項目 \ 部署	3 E	3 W	4 E	4 W	3C	4B	4C	ICU	CCU	RCU	3B	A4	計
予防対策	10	5	6	8	58	64	91	807	656	378	22	26	2, 131
発生報告	8	3	10	10	9	10	5	29	0	17	1	5	107
院内発生	4	3	6	4	3	4	3	27	0	14	1	1	70
持ち込み	4	0	4	6	6	6	2	2	0	3	0	4	37
入院延べ患者数	10968	10603	10805	9784	9154	9211	9054	2643	2520	1807	504	3521	80, 574
発生報告（％）	0. 07%	0. 03%	0. 09%	0. 10%	0. 10%	0. 11%	0. 06%	1. 10%	0. 00%	0. 94%	0. 20%	0. 14%	0. 13%
院内発生（％）	0. 04%	0. 03%	0. 06%	0. 04%	0. 03%	0. 04%	0. 03%	1. 02%	0. 00%	0. 77%	0. 20%	0. 03%	0. 09%

表 3 褥瘡有病率・推定発症率

年 度	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	令和 2	令和 3	令和 4	令和 5
褥瘡有病率（％）	1. 04	1. 41	2. 10	2. 44	0. 81	1. 65	2. 12	1. 97	0. 95	2. 61
推定発症率（％）	0. 48	0. 76	1. 3	1. 09	0. 47	0. 86	1. 28	1. 26	1. 76	1. 78

令和5年度 循環器・呼吸器病センター教育（研修）体系

循環器・呼吸器病センター 看護部

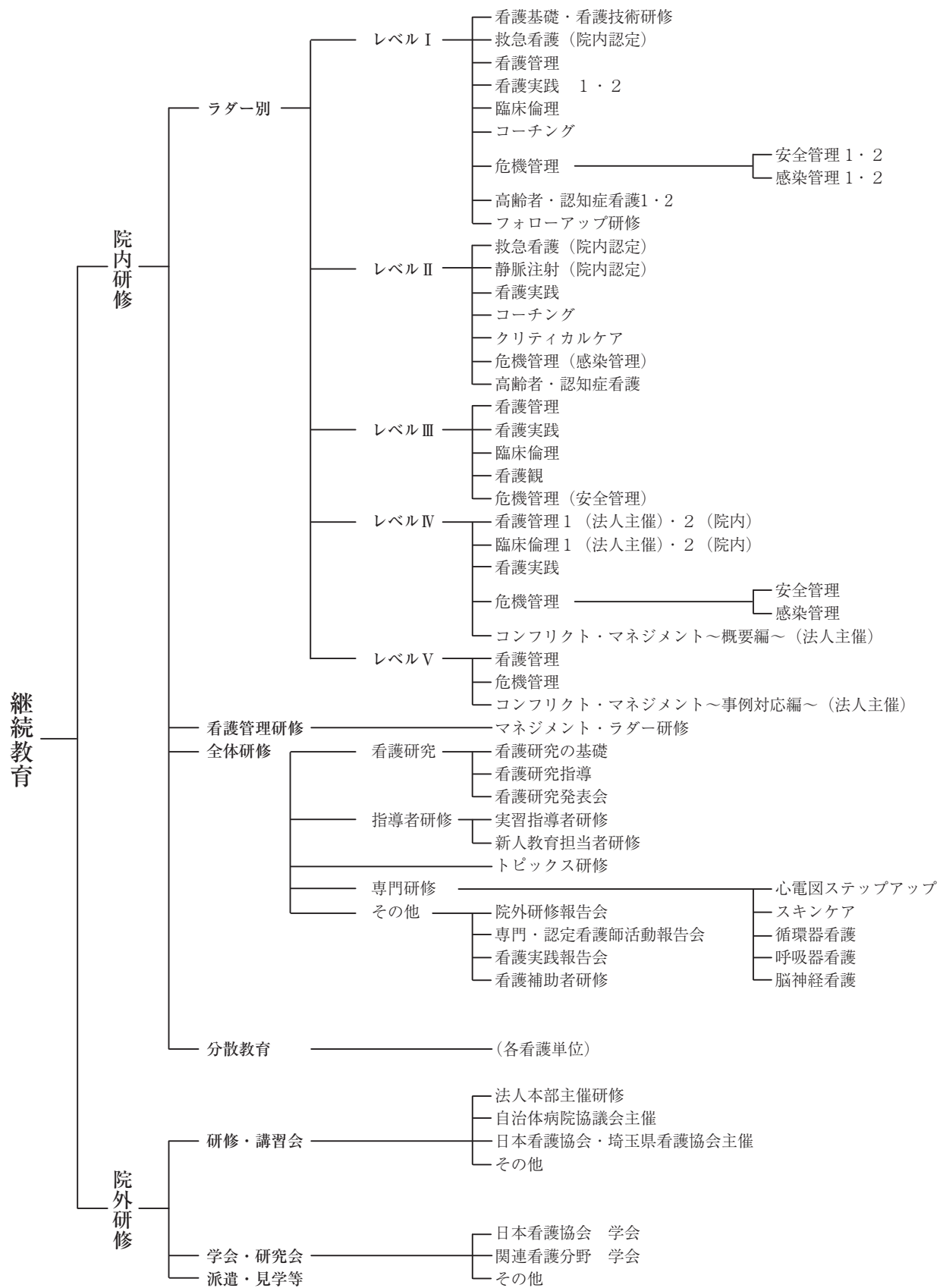


表 4 令和 5 年度 院内教育実績

循環器・呼吸器病センター看護部

	研 修 名	日 時	対象者	受講者数	講 師	目 的 ・ 目 標
レベルⅠ	新採用者・異動者研修	4月4日～13日、4月17日、4月18日	I 前	33	教育委員会 他	・センター全体および看護部の組織と業務の概要を理解し、職員としての自覚を持つことができる
	看護技術基礎研修	4月12日 口腔ケア	I 前	31	師長 教育委員会 認定看護師 他	・基本的な基礎看護技術・センターの特徴的な疾患看護の基礎知識が習得できる ・患者の状態を把握するためのフィジカルアセスメントが理解できる
		4月12日 活動援助技術		31		
		4月14日 採血・血糖測定		33		
		4月26日 ミキシング等		33		
		4月26日輸液・シリンジポンプ		33		
		4月19日20日 電子カルテ		33		
		4月27日 採血・血糖測定		33		
		5月1日 与薬の技術		33		
		5月8日		33		
		5月17日		33		
		6月14日		32		
		7月19日		32		
		10月18日		30		
		2月7日		29		
	看護管理	10月18日	I 前	30	清水師長	・チームの一員としての役割を理解し責任をもって行動できる ・メンバーシップについて理解することができる
	臨床倫理	5月17日	I 前	33	山戸主幹	・看護に必要な職業倫理・臨床倫理の基礎知識を学ぶ
	看護実践	6月14日	I 前	32	記録委員会	・看護に必要な患者の情報を収集し、全体像を把握できる ・事例を通して患者の家族も含めた情報収集ができ、看護過程の展開ができる ・根拠に基づいた看護を実践したことを記録できる
		12月6日		29		
	フォローアップ	5月8日	I 前	33	教育委員会	・3ヶ月・6カ月・1年の課題などを明確にする ・看護技術の習得と精神的支援が受けられる
		7月19日		32		
		10月18日		30		
		2月7日		27		
	救急看護	6月14日 講義・演習	I 前	32	教育担当主任	・救急時の対応の基本的な対応が理解できる ・急変時に必要な基本技術（一次救命処置：BLS）が実践できる
		7月19日 筆記試験		31		
		10月4日		31		
	高齢者・認知症看護	6月14日	I 前	32	関口師長 桐生大学 佐藤光栄教授	・高齢者の特徴と看護について理解できる ・高齢者および認知症患者の特徴と看護について理解できる
		12月6日		29		
	危機管理（安全管理）	4月11日	I 前	32	関根SM	・医療安全に関する基本的知識の理解ができる ・インシデントの発生状況を知り、その対応策について理解できる ・危険予知について理解し対策を考えることができる
		10月18日		30		
	危機管理（感染管理）	4月5日	I 前	32	大沢感染管理 認定看護師	・感染管理に必要な基本的な知識（スタンダードプリコーション、感染経路別予防策、針刺し対応等）を習得し、実践できる ・職業感染とその対処法を理解できる
		10月18日		30		
	コーチング	12月6日	I 前	29	戸森師長	・患者・家族・職員との対話の必要性を理解し、意図的な対話・傾聴ができる
	ラダーⅠ合計			1036		

	研 修 名	日 時	対象者	受講者数	講 師	目 的 ・ 目 標
レベルⅡ	救急看護	7月5日講義・演習	I	34	教育担当主任 教育委員会	・急変時に必要な二次救急処置の基本技術が実施できる ・緊急時の看護師の対応が理解でき、対応（二次救命処置：ACLS）が実施できる
		9月5日筆記試験		32		
		11月1日実技試験		33		
	静脈注射	6月21日講義	I	31	教育担当主任 教育委員会	・静脈注射を安全・正確に実施するために必要な知識、技術の習得ができる
		7月5日筆記試験		31		
		9月27日実技試験		31		
	看護実践	11月8日	I	34	清水師長	・実践事例を通して看護を語ることができる
	コーチング	10月25日	I	38	戸森師長	・患者・家族・職員との対話の中で承認の重要性を理解し、戦略的質問を行うことができる ・戦略的質問を通して相互理解を深め、自己の課題を明確にできる
	高齢者・認知症看護	9月20日	I	35	桐生大学 佐藤光栄教授	・高齢者および認知症患者の看護に必要な知識・技術の習得ができる
	クリティカルケア	11月29日	I	29	急性・重症患者 看護 専門看護師 渡邊 好江	・クリティカルケア領域で必要な知識・技術・アセスメント能力を高め、全人的な看護を実践することができる
	危機管理（感染管理）	10月11日	I	32	大沢感染管理 認定看護師	・感染管理に関する知識・技術を習得し、感染予防対策場面において実践することができる
	ラダーⅡ合計			360		

	研 修 名	日 時	対象者	受講者数	講 師	目 的 ・ 目 標
レベルⅢ	看護管理	11月22日	Ⅱ	8	株崎副部長	・所属する看護単位で、チームリーダーや係として役割遂行ができる
	臨床倫理	12月20日	Ⅱ	7	山戸主幹	・日常の看護場面における倫理的ジレンマについて気付くことができる ・患者・家族の価値観や思いから、意思決定支援について考えることができる
	看護実践	11月22日	Ⅱ	7	大谷師長	・事例を通して入院から退院までの支援を調整することができる ・多職種と連携し、必要な看護が実践できる
	看護観	7月26日	Ⅱ	7	鳥村師長	・自己の看護実践を看護理論に基づき客観的に振り返ることができる ・自己の看護観を確立し、それを文章化して表現できる
	危機管理（安全管理）	12月13日	Ⅱ	11	関根SM	・インシデント・アクシデント事例から、分析、対策の立案、実施まで考えることができる
	ラダーⅢ合計			40		

表 4 令和 5 年度 院内教育実績

循環器・呼吸器病センター看護部

	研 修 名	日 時	対象者	受講者数	講 師	目 的 ・ 目 標
レベルⅣ	看護管理1 (法人主催)	6月20日①	Ⅲ	17	福島通子氏 株崎副部長	・タイムマネジメントを学び、リーダーシップにいかすことができる
	看護管理2 (院内)	7月12日②				・所属チームで専門的な能力を必要とされる役割、または指導的役割を遂行できる
	臨床倫理1 (法人主催)	10月12日①	Ⅲ	16	稲葉一人氏 山戸主幹	・臨床倫理を学び、倫理的課題に取り組むことができる
	臨床倫理2 (院内)	9月13日②				・臨床実践の中で起こる倫理的課題について、問題解決に取り組むことができる
	看護実践	11月15日	Ⅲ	15	下田師長	・看護過程を展開し、看護実践事例を通し、成功体験を語ることができる ・実践モデルとしての役割を担うことができる
	コンフリクト・マネジメント ～概要編～ (法人主催)	9月7日	Ⅲ	13	日本医療病院機能評価 機構 遠田光子	・コンフリクトマネジメントの概念を理解し、看護実践・職員とのかかわりの中で活用できる
	危機管理 (安全管理)	5月31日	Ⅲ	13	関根SM	・病棟運営上の危機的状況を理解できリーダーシップを発揮できる ・インシデントアクシデント事例の分析、対策の立案、実施まで考えることができる
	危機管理 (感染管理)	11月28日	Ⅲ	6	大沢感染管理 認定看護師	・病棟運営上の危機的状況を理解できリーダーシップを発揮できる ・感染症発生事例の対応・アクシデント発生時の対応を理解し、対策を実践することができる
ラダーⅣ合計				80		

	研 修 名	日 時	対象者	受講者数	講 師	目 的 ・ 目 標
レベルⅤ	看護管理	5月24日	Ⅳ	2	高橋看護部長	・組織の目的、仕組み、管理者の役割と機能について理解し、師長の代行および補佐としての役割を果たすことができる
	危機管理	6月28日	Ⅳ	4	関根SM	・病棟運営上の危機的状況を理解し、その問題について多職種と連携し、対策を立案し解決に向けて取り組むことができる。
	コンフリクト・マネジメント ～事例対応編～ (法人主催)	7月6日	Ⅳ	6	日本医療病院 機能評価 機構 遠田光子	・コンフリクト・マネジメントの概念を理解し、発生した事象に対処できる
	ラダーⅤ合計			12		

ラダーⅠ～Ⅴ延受講者数	1528名
-------------	-------

	研 修 名	日 時	対象者	受講者数	講 師	目 的 ・ 目 標
専門研修	心電図ステップアップ	5月17日 6月22日 7月19日	全職員	120	笠井美穂 宮尾真奈美	・心電図の基礎疾患を習得し、心電図から得られる情報を看護実践に活かすことができる。
	スキんケア	5月23日 6月20日 7月11日	全職員	93	川上幸子 (外部講師) 下田純子 石毛 圭輝	・スキんケア領域の看護実践に必要な基礎から応用の知識を学び、日常の看護に活かすことができる
	循環器看護	9月20日 10月18日 11月15日 12月20日	全職員	92	笠井美穂 宮尾真奈美 大久保敦子 林 恵子	・循環器疾患患者のたどる経過を学び、病態を理解し実践に活かせる看護の質の向上を目指す
	呼吸器看護	9月5日 10月3日 10月31日 11月21日	全職員	92	下田純子 大久保敦子 岩田由美子 野口雅子	・呼吸器疾患患者に関する病院全体の関心を高め、看護の知識・技術を身に付け、看護の質の向上を目指す。
	脳卒中の治療と看護	6月23日 7月28日 9月8日 11月10日	全職員	88	吉田仁美 野口雅子	・脳卒中の急性期の病態を理解し、脳卒中患者に関する専門的知識、技術、態度を習得し、専門性の高い看護を実践する能力を育成する。
	選択研修合計			485		

	研 修 名	日 時	対象者	受講者数	講 師	目 的 および 目 標
その他	マネジメントラダー	6月15日 6月22日 7月13日 7月20日 8月22日 9月7日 10月19日 11月2日 2月15日 3月14日	看護師長・ 副師長・ 病棟主任 他	180	鈴木康美氏等 (院外講師)	・看護管理実践のスキルアップを図るための専門的な知識・技術を修得することができる。 ・看護管理におけるキャリアアップのための自己啓発に結び付けることができる。
	看護研究の基礎	7月24日 9月25日 11月27日 1月30日	全職員	13	鈴木師長 看護研究委員会	・看護研究のプロセスを学び、看護研究計画書が作成できる
	看護研究報告会	3月7日	全職員	68	看護研究委員会	・研究成果を発表できる ・研究発表会に参加しその内容を共有し、さらなる研究へ結びつけることができる
	院外研修・認定 看護師活動報告会	3月12日	全職員	61	教育委員会 認定看護師	・院外研修での学びを共有できる ・認定看護師の活動および成果を知り、共有できる
	看護実践報告会	2月14日	全職員	302	看護業務改善 委員会	・看護の質向上のための各看護単位での看護実践の取り組みを知り、その成果を共有できる
	新人教育体制 研修	3月6日、3月12日	新人教育 チーム	39	教育委員会	教育指導体制を理解し、チームで新採用看護師などの育成支援体制を作ることができる。

表5 令和5年度 専門看護師・認定看護師活動報告書1

病院名：埼玉県立循環器・呼吸器病センター 専門看護師：2名、認定看護師：15名（専従1名、活動休止中1名） 活動実績：令和6年3月末日現在																
看護分野別活動内容																
認定分野 氏名 認定年度	がん看護専門看護師（1名） （がん性疼痛看護認定看護師） 山戸千枝（認定：H18、専門：H24）				慢性疾患看護専門看護師（1名） 吉田仁美（R4）				緩和ケア（1名） 大久保敦子（H25）				糖尿病看護（2名） 石毛圭輝（H20） 藤井基広（H28）			
活動概要	(1) 実践 ①がん看護相談 (2) 相談 ①医療スタッフに対し、がん患者の地域医療連携に係わる相談 (3) 調整 ①地域の保健医療福祉に携わる方々との連携・調整 (4) 倫理調整 ①倫理カンファレンス参加 (5) 指導/教育 ①研修講師 (6) 研究				(1) 実践 ①所属病棟での看護実践 (2) 相談 ①院内ラウンド ②病棟看護師からのコンサルテーション ③他職種からのコンサルテーション (3) 調整 ①医療を提供する他職種間の調整 (4) 倫理調整 ①意思決定支援 (5) 指導/教育 ①ベッドサイドでのOJT ②院内研修講師 (6) 研究				(1) 実践 ①所属病棟での看護実践 ②がん看護相談外来 がん看護相談、がん患者指導管理料1・2算定の面談 (2) 相談 ①院内ラウンド ②認定看護師活動依頼書や電話相談依頼を受け、対応する。 (3) 指導 ①デスケースカンファレンス参加やケースカンファレンス参加 ②スタッフへの緩和ケアに関する技術指導 ③院内外研修講師				(1) 実践 ①所属病棟での看護実践 ②血糖管理に関する医師との調整 ③フットケア外来 （第1・第3火曜日、第2・第4金曜日） (2) 相談 ①院内ラウンド ②病棟看護師からのコンサルテーション ③医師からのコンサルテーション (3) 指導 ①院内・院外の研修講師			
実践件数	実践件数		57		実践件数		51		実践件数		15		実践件数		98	
	(実践内容) (1) がん看護相談：24件 (2) がん患者指導管理料算定に係わること ①指示フロー・記録の見直し ②呼内・呼外・消外医師、外来看護師への案内 ③がん患者指導（イ）：21件 ④がん患者指導（ウ）：7件 (3) 倫理カンファレンス参加：5回				(実践内容) 日常生活支援に関する実践：4件 患者・家族の心理支援：5件 離床支援・リハビリテーション・ADL支援：11件 疾病管理：15件 意思決定支援：3件 退院指導：13件				(実践内容) 症状マネジメント：2件 がん患者相談：2件 家族ケア：1件 意思決定支援：2件 その他8件				(実践内容) (1) 所属病棟における看護実践 19件 インスリン調整・指導、下肢処置、療養指導等 （石毛：4階A病棟、藤井：4東病棟） (2) フットケア外来件数：79件			
相談	相談件数		3		相談件数		8		相談件数		37		相談件数		61	
	(相談内容) 遺伝子パネル検査受診相談・調整：3件				(相談内容) ADL支援に関すること：1件 治療・治療後のケアに関すること：1件 退院後の生活に関すること：1件 代理意思決定支援について：1件 疾病管理について：3件 他職種連携について：1件				(実践内容) 疼痛：17件 呼吸困難：9件 精神的ケア：3件 家族ケア：2件 その他：6件				(相談内容) フットケアに関する相談：43件 インスリン自己注射・血糖測定に関する相談：6件 血糖コントロール・低血糖に関する相談：3件 その他：9件			
指導	指導件数		6		指導件数		3		指導件数		12		指導件数		7	
	(1) 研修講師 （院内） ①レベルⅠ研修「痛みのある患者の看護」 ②レベルⅠ研修「臨床倫理」 ③レベルⅢ研修「臨床倫理」 ④レベルⅣ研修「臨床倫理」 （院外） ①県立高等看護学院 「治療の場からの移行期-在宅療養の準備」 「治療の場からの移行期-療養の場の選択」 「看取りの看護・家族看護」 ②埼玉県熊谷市医師会看護専門学校 「呼吸器疾患患者の看護」90分×5コマ ③埼玉県看護協会主催研修 「看取りにおける看護師の役割」1日				(1) 研修講師 （院内） ①専門研修「実践に活かせる脳卒中看護」計3回 内容 ・脳卒中の基礎知識 ・症状からみるメカニズムと看護 ・高次脳機能障害患者の看護				(1) 研修講師 （院内） ①ラダーⅠ研修終末期の看護講師 ②専門研修「肺がん患者の看護①②」計2回 ③専門研修「循環器疾患患者の緩和ケア」 ④緩和ケア病棟再開によるOJT講師：計4回 （院外） ①熊谷医師会看護専門学校講師「ターミナルケア」講師：計3回 ②埼玉県疾病対策課「心不全患者の緩和ケア」				(1) 研修講師 （院内） ①新採用者研修「専門看護師・認定看護師について」(石毛) 「インスリン療法を受ける患者の看護」(藤井) ②専門研修「スキンケア」(藤井) （院外） ①埼玉県立高等看護学院（藤井） 「成人看護学方法論Ⅳ 糖尿病患者の看護」計4回			
その他	(1) 委員会活動 なし (2) 院外活動 ①肺がん患者の療養・就労両立支援の概要説明と指示内容共有のための事業所訪問：3件 (3) 学会・研修会参加 ①第38回日本がん看護学会学術集会（神戸）ポスター発表 ②日本のホスピス50周年記念講演「あなたはあなたのままで大切です」講師：田村恵子 聴講 ③ともいき京都主催講演会「看取りケアを学ぶー緩和ケア病棟・チーム・在宅での工夫やヒントー」聴講 ④両立支援コーディネーター基礎研修受講				(1) 委員会活動 ①脳卒中相談窓口ワーキング ②専門看護師・認定看護師会議 ・専門・認定看護師通信の発行 ・医療相談 ・活動報告会 (2) 院外活動 ・聖路加国際大学主催「脳活カフェ」参加（脳卒中サバイバーへアロマセラピー実施） ・「脳卒中フェスティバル」参加（参加者へのアロマセラピー実施） ・ニューロサイエンス看護学会高度実践看護検討委員 ・第17回日本慢性看護学会学術集会企画・運営・実行委員 (3) 学会・研修参加 ・日本慢性看護学会学術集会 ・日本CNS看護学会学術集会 ・日本ニューロサイエンス看護学会学術集会 ・日本脳卒中学会 多職種講習会 ・日本ニューロサイエンス看護学会主催「脳と神経 目で見てわかるWEBセミナー」 ・「3時間で学ぶ！脳卒中最新治療」研修 ・次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケア」研修 ・Barrow Neurological Institute（in Arizona USA）にて短期研修 ・American Association of Neuroscience Nursing Conference（in Utah USA）参加				(1) 委員会活動 ①緩和ケア委員会 ②専門看護師・認定看護師会議 ・専門・認定看護師通信の発行 ・活動報告会 (3) 学会・研修参加 ①日本緩和医療学会学術集会 ②日本死の臨床研究会年次大会 ③日本ホスピスケア研究会参加 ④日本心不全学会学術集会				(1) 委員会活動 ①NST会議（藤井） ②専門看護師・認定看護師会議（石毛、藤井） ・専門・認定看護師通信の発行 ・医療相談 ・活動報告会開催 ③フットメディカルラウンド（石毛、藤井） ④看護研究委員会（藤井） (2) 学会・研修会参加 ①日本糖尿病教育・看護学会学術集会（石毛）（その他） ①認定看護師更新認定（3回目 石毛）			

表5 令和5年度 専門看護師・認定看護師活動報告書2

病院名：埼玉県立循環器・呼吸器病センター 専門看護師：2名、認定看護師：15名（専従1名、活動休止中1名） 活動実績：令和6年3月末日現在												
看護分野別活動内容												
認定分野 氏名 認定年度	がん化学療法看護（1名） 下田純子（H20）			摂食・嚥下障害看護（1名） 野口雅子（H30）			慢性心不全看護（2名） 笠井美穂（H24） 宮尾真奈美（H28）			感染管理（3名） 立花亜紀子（H15） 木村めぐみ（H25） 大沢朋子（H27）専従		
活動概要	(1)実践 ①外来化学療法室や外来・病棟での看護実践 ② 外来化学療法をはじめ化学療法看護における環境整備、各部署との調整 ③各委員会との連携 ④がん患者指導管理料1・2算定面談 ⑤看護外来担当(不定期) (2)相談 ①院内ラウンド ②相談や依頼を受けて病棟へ訪問 (3)指導 ①院内・看護学校等の研修講師			(1) 実践 ①所属病棟における看護実践 ②摂食嚥下機能評価 (2) 相談 ①院内ラウンド ②相談や依頼を受け、嚥下評価し嚥下訓練や代償法の提案や食形態の調整、リスク管理についての支援。 ③口腔ケア (3) 指導 ①スタッフへの摂食・嚥下技術指導 ②口腔ケア推進会議リンクナースへの指導 ③院内・院外研修講師 ④認定教育課程実習指導			(1) 実践 ①所属病棟での看護実践 ②心不全再入院患者の増悪予防の支援 ③終末期心不全患者の精神的支援 ④初回心不全患者の自己管理能力アセスメント (2) 相談 ①院内ラウンド ②患者支援などの相談を受け、問題解決の提案・実践を行う (3) 指導 ①院内研修講師 ②看護学校講師 ③院外研修講師			(1) 実践 ①感染症発生時の感染防止対策（標準予防策の徹底、感染経路別に準じた対応、環境清掃、クラスター発生時の対応 等） ②サーベイランス ③ICTラウンド ④職業感染防止（針刺し・切創による血液・体液曝露、結核曝露、COVID-19等） ⑤抗菌薬適正使用支援 ⑥感染管理に関する物品の検討 ⑦新型コロナウイルス感染症、結核等に関わる行政対応 (2) 相談 ①院内全ての職員や他院からの相談を受け、医療関連感染低減を目的とした介入 ②職員が感染症に罹患した際の対応 ③抗菌薬に関する相談対応 (3) 指導 ①院内、院外研修講師 ②感染症、感染予防に関する職員への指導 ③COVID-19クラスターが発生している病院、施設への指導		
実践	実践件数		33	実践件数		119	実践件数		24	実践件数		1582
	(実践内容) (1) 呼吸器内科外科病棟・外来・外来化学療法室の整備、薬剤部との連携を図り投与管理に関する問題や副作用に関する問題への介入、セルフケア支援、意思決定支援 (2) 病棟業務化学療法実施病棟に対し、依頼を受けラウンドを行い、直接介入 意思決定支援：1件 セルフケア支援：6件 心理的支援：6件 がん患者指導管理料：7件 電話相談：2件 その他：5件 がん患者看護相談外来：6件			(実践内容) (1) 所属部署及び脳卒中患者の嚥下機能評価：117件 (2) 口腔ケア指導：1件 (3) 病棟カンファレンス（倫理カンファレンス）参加：1件			(実践内容) (1) 自己管理のアセスメント18件 (2) 精神的支援：0件 (3) 退院後の運動・活動について：0件 (4) 再入院患者の増悪予防支援：3件 (5) 心不全増悪のアセスメント：0件 (6) 合同カンファレンス：2件 (7) その他：1件			(実践内容) サーベイランス：98件 院内ラウンド：95件 感染防止対策（標準予防策・接触・飛沫・空気）：395件 職業感染防止（結核、インフルエンザ、感染性胃腸炎、流行性角結膜炎、帯状疱疹、針刺し・粘膜曝露、COVID-19）：341件 洗浄・消毒・滅菌：106件 ファシリティ・マネジメント：114件 抗菌薬の適正使用支援：24件 その他（検査、物品管理、病原体に関すること等）：409件		
相談	相談件数		15	相談件数		9	相談件数		1	相談件数		1410
	(相談内容) 殺細胞薬副作用対策：10件 意思決定支援：3件 心理的支援：1件 投与管理：1件			(相談内容) 看護実践以外の病棟からの相談、嚥下評価依頼：7件 口腔ケア評価：2件			(相談内容) 療養支援1件			(相談内容) 感染防止対策（標準予防策・接触・飛沫・空気）：498件 職業感染防止（結核、インフルエンザ、感染性胃腸炎、流行性角結膜炎、帯状疱疹、針刺し・粘膜曝露、COVID-19）：465件 洗浄・消毒・滅菌：117件 ファシリティ・マネジメント：143件 抗菌薬に関する相談16件 その他（検査、物品管理、病原体に関すること等）：171件		
指導	指導件数		5	指導件数		5	指導件数		24	指導件数		64
	(1) 研修講師（院内） ①ラーⅣ研修「看護実践」 ②専門研修「肺がん患者の看護」 ③専門研修「化学療法中のスキンケア」 (院外) ①秩父看護専門学校講師 「呼吸器疾患に障害のある患者の看護」計2回			(1) 研修講師（院内） ①新採用者研修：「摂食嚥下について」「口腔ケアについて」 ②3西病棟勉強会「病態から考える嚥下評価」 ③専門研修「脳卒中の看護」「呼吸器の看護」 (院外) ①埼玉県看護協会認定看護師派遣事業講師 嚥下訓練（間接訓練）について（認定過程教育機関） 群馬バース大学認定教育課程実習指導（3名）			(1) 研修講師（院内） ①新採用研修「循環器疾患と看護」（笠井） 「フィジカルアセスメント」（宮尾） ②選択研修「実践に活かせる心電図看護を学ぼう」計3回（笠井・宮尾） ③選択研修「実践に活かせる循環器看護を学ぼう」計4回（笠井・宮尾） (院外) ①埼玉県熊谷医師会看護専門学校講師:計4回（宮尾） ②埼玉県立高等看護学院講師計2回（笠井） ③埼玉県看護協会「虚血性心疾患と看護」（笠井） ④上尾市医師会上尾看護専門学校講師 計4回（宮尾・笠井） ⑤認定看護師派遣事業 訪問看護ステーションアスエイド「心不全について」（笠井） ⑥疾病対策課心不全に関する地域研修会（笠井・宮尾） ⑦武蔵嵐山病院「不整脈の看護について」（宮尾） ⑧東都大学「リハビリテーション看護について」（宮尾）			(1) 研修講師（院内） ①看護部研修：21件（勉強会含む） ②院内感染対策研修会：2件 ③新採用職員、異動職員研修：4件 ④学生実習（看護、薬剤、栄養）：6件 ⑤埼玉県主催感染症専門研修実習：6件 (院外) ①研修講師：8件 看護大学：1件 保健所（熊谷・本庄・秩父）：4件 ・近隣病院、高齢者施設研修会：2件 ・感染管理認定看護師教育課程：1件 ②埼玉県感染対策研修会：1件 ③COVMAT出動：3件 ④病院ラウンド、感染対策指導：5件 ⑤2 感染症に対する標準予防策、感染経路別予防策等の指導		
その他	①委員会活動 ①化学療法委員会 ・専門看護師・認定看護師会議 ・専門・認定看護師通信の発行 ・活動報告会 (2) 薬剤部との定期的な情報交換 (3) 学会・研修会参加 ①日本肺癌学会 (その他) ①認定看護師更新認定（3回目）			①委員会活動 ①RSTラウンド ②口腔ケア推進会議 ③専門看護師、認定看護師会議 ・活動報告会 ④摂食嚥下支援チーム活動 ⑤脳卒中窓口ワーキング (2) 学会・研修会参加 ①日本口腔ケア学会 ②摂食嚥下リハビリテーション学会（オンデマンド）			①委員会活動 ①専門看護師、認定看護師会議 ・専門看護師、認定看護師通信の発行 ・活動報告会 ②心不全ケア委員会（笠井・宮尾） (2) 学会・研修会参加 ①日本心不全学会参加（宮尾・笠井）			①委員会等活動 ①ICC ②ICT、AST ③看護部感染制御委員会 ④専門看護師、認定看護師会議 ⑤結核小委員会 ⑥DOTSカンファレンス ⑦地域連携感染カンファレンス (2) 院外での活動 ①熊谷保健所管内感染症担当者会議 ②秩父保健所管内感染症担当者会議 ③埼玉県結核コホート検討会 ④埼玉県感染管理認定看護師・保健所意見交換会（COVMATについて発表） ⑤埼玉県感染管理認定看護師ネットワーク ⑥COVID-19感染症法改正後の対応に関する検討会 (3) 学会・研修会参加 ①日本環境感染学会 学術集会 ②日本感染管理ネットワーク 学術集会 ③感染管理認定看護師キャリアディベロップメント講座		

表5 令和5年度 専門看護師・認定看護師活動報告書3

病院名：埼玉県立循環器・呼吸器病センター 専門看護師：2名、認定看護師：15名（専従1名、活動休止中1名） 活動実績：令和6年3月末日現在									
看護分野別活動内容									
認定分野 氏名 認定年度	透析看護（1名） 林 恵子（R2）		集中ケア（1名） 岩田由美子（H29）		がん性疼痛看護（1名） 笹沢弥生（H24）		手術看護（2名） 鈴木理子（H22） 赤沼友希（H29）活動休止中		
活動概要	(1) 実践 ①所属病棟での看護実践 ②腎不全患者のセルフケア支援 ③腎不全患者の意思決定支援の援助（腎代替療法選択や、透析継続に関して） (2) 相談 ①院内ラウンド ②患者の支援方法の相談を受け、問題解決の提案・支援を行う。 (3) 指導 ①院内研修講師 ②腎不全・透析患者個々に対して指導方法を病棟スタッフを情報交換し指導を行う。 ③院外研修講師		(1) 実践 ①生命の危機状態にある患者および家族に対する看護実践 ②所属病棟での活動 ③RSTラウンド ④SOFAスコアをフローチャートに基づき記録 ⑤早期離床リハビリテーションへの取り組み ⑥鎮痛・鎮静コントロールへの取り組み ⑦早期経腸栄養への働きかけ ⑧SAT・SBTプロトコル試験導入・運用 ⑨せん妄予防対策への助言 (2) 相談 ①集中ケア領域の生命の危機状態にある患者および家族に対する看護実践に関する相談をうけ提案・実践を行う ②集中ケア領域のスタッフ教育に関する相談をうけ勉強会・シミュレーションを行う ③集中ケア領域病棟ラウンド ④一般病棟からのNPPVについての相談をうけ、助言・提案・実践を行う (3) 指導 ①院内研修講師 ②看護学校講師		(1) 実践 ①がん性疼痛が生じる患者及び家族ケアの看護実践 ②痛みの性質を理解し提示し痛みに合わせた薬を提案 ③がん看護相談外来 ・がん看護相談、がん患者指導管理料1・2算定の面談 (2) 相談 ①院内ラウンド ②認定看護師活動依頼書や電話で相談依頼を受け、対応する。 ③苦痛を伴う患者及び家族の対応について相談 (3) 指導 ①デスケースカンファレンス参加やケースカンファレンス参加 ②麻薬の活用方法について指導		(1) 実践 ①手術を受ける患者の看護に関する最新の知見と技術に基づいた看護実践 ②周術期にある患者・家族の権利を擁護と、自己決定を尊重した看護実践 (2) 相談 ①術前アセスメント ②医療安全活動 ③術中の家族看護 ④手術室運営に関する統計資料作成と報告 (3) 指導 ①看護師の育成 ②院内研修講師		
実践件数	実践件数	41	実践件数	338	実践件数	19	実践件数	6	
	(実践内容) (1) 血液透析：11件 (2) 腹膜透析：9件 (3) 腎移植：1件 (4) セルフマネジメント：7件 (5) 意思決定支援：13件		(実践内容) (1) 呼吸ケアサポートチームラウンド293件 呼吸ケア 人工呼吸器について 早期離床について 急性期の栄養管理について 鎮静・鎮痛コントロールについて ポジショニング・体位変換・ドレナージ 口腔内の保湿・保清について (2) 勉強会について45件		(実践内容) (1) 呼吸困難感患者の対応：4件 (2) 疼痛コントロール6件 (3) 精神的ケア：1件 (4) 退院支援（退院支援）：3件 (5) デスケース：3件 (6) 家族ケア：2件		(実践内容) (1) 家族ケア 術中訪問：1件 (2) 手術体位 レビテーターを使用する砕石位について、レビテーターによるコンパートメント症候群を防ぐためのアセスメント、観察、実際の体位とり：1件 (3) 術中急変対応シミュレーション TAVI手術中の急変対応について机上シミュレーション：1件 (4) ガーゼ遺残に対する分析、根本原因の抽出と対応策の決定、チームへの介入：1件 (5) 手術室運営に関すること 稼働率計算、要求度割合について傾向の分析：1件（12回） (6) 医療安全活動：移乗時タイムアウトキャンペーン実施：1件		
相談	相談件数	14	相談件数	45	相談件数	4	相談件数	4	
	(相談内容) 腎不全予防の指導方法について 腎不全患者のセルフケア方法について 腹膜透析患者の感染防御方法について		(相談内容) 脳疾患患者のドレナージ管理と看護ケア 人工呼吸器のトラブルシューティングの対応 挿管中の口腔ケアトラブルについて 挿管、鎮痛・鎮静中の栄養コントロールなど		(相談内容) 家族が捉えている麻薬についての認識の再構築に用いること 在宅に向けての疼痛コントロール調整 転院する先の麻薬へ変更した後の疼痛評価とレスキューの活用方法について 遺族ケア		(相談内容) 手術看護やりがいの創出 看護を語る会の企画、運営、ファシリテーター育成 機能的出血対応マニュアル作成 手術室運営委員会からの依頼を受け、多職種と検討 インシデントレポートKYTの進め方 医療安全担当とともに実施 ガーゼカウント方法について ガーゼカウントレイの試供を実施し、安全に行える方法を決めた		
指導	指導件数	16	指導件数	14	指導件数	2	指導件数	2	
	(1) 研修講師（院内） ①分散教育 4 E「透析患者の看護について」 「腹膜透析患者の看護」計3回 4 W「シャント管理」 ICU「透析患者の看護について」 RCU「透析患者の看護について」計6回 ②選択研修 「実践に活かせる循環器看護を学ぼう」（院外） ③埼玉県立高等看護学院講師：計3回		(1) 研修講師（院内） ①CCU 「脳疾患患者のドレナージ管理と看護ケア」計4回 ②A4 「人工呼吸器装着中の看護」 ③ICU 「シミュレーションとは」 「アサーションとは」 「接遇」シミュレーション 「SAT・SBTについて」 「情報収集能力向上のポイント」 ④選択研修 「実践に活かせる呼吸器看護」 「脳疾患看護」（院外） ⑤埼玉県立高等看護学院講師計2回		(指導内容) (院内) ①他病棟と調整しデスケース開催 ②倫理カンファレンス開催		(指導内容) (院内) ①手術室勉強会 臨床倫理講義、倫理カンファレンス 手術看護におけるアドボカシー：事例を用いた検討について講義、ファシリテーター：1件 ②砕石体位アセスメント指導 レビテーターを用いた砕石位の観察ポイント、安全な体位どりの方法、術後の有害事象の観察方法について指導：1件		
その他	(1) 委員会活動 ・専門看護師・認定看護師会議 ・専門看護師・認定看護師通信の発行 ・活動報告会 ・医療相談会開催2回/年 (2) 学会・研修会参加 ①日本腎不全看護学会：発表 ②日本透析学会：座長 ③日本腹膜透析学会参加 ④日本臨床腎臓病看護研究会		(1) 委員会活動 ①RSTラウンド ②専門看護師・認定看護師会議 ・専門看護師・認定看護師通信の発行 ・活動報告会 ・医療相談会開催2回/年 (2) 学会・研修会参加 ①集中治療医学会学術集会（WEB） ②クリティカルケア看護学会（オンデマンド） ③脳神経外科看護研究会NurCe（オンデマンド）		(1) 委員会活動 ①専門看護師・認定看護師会議 ・クロバ通信 自己紹介 ・活動報告会 (2) 学会・研修会参加 ①がん看護学会 ②日本緩和医療学会教育セミナー		(1) 委員会活動 ①看護研究委員会 ・「研究の基礎」研修講師 ・看護研究指導 ②専門・認定看護師会議 クローバー通信 (2) 院外活動 手術看護情報交換会ファシリテーター (3) 学会・研究会参加 ①日本看護管理学会（発表） ②日本手術看護学 ③会関東甲信越手術看護地区学会		

表 6 令和 5 年度 研修主催者別院外研修派遣実績

	主催者名	コース数	参加人数（人）
1	県立病院機構主催	1 0	1 4 1
2	日本看護協会・全国看護セミナー等	8	1 0
3	埼玉県看護協会	5 6	1 3 0
4	学会・研究会等	1 1	3 6
5	長期派遣研修	1 0	1 3
6	その他（地域、管理研修、医療安全 感染管理 他）	4	4
	合 計	9 9	3 3 4

※ 長期派遣研修とは、1 カ月以上に及ぶ研修派遣期間を再掲している。

表 7 令和 5 年度 臨地実習・研修、病院見学受け入れ実績

	実習・研修等受け入れ内容	実人数（人）	延人数（人）
1	県立高等看護学院 臨地実習	2 0 5	1 6 3 3
2	東都大学 臨地実習	1 4 1	6 0 4
3	上武大学 臨地実習	3 3	2 3 1
4	認定看護師教育課程 摂食嚥下障害看護	3	6 0
5	病院見学会	2 7	2 7
6	インターンシップ	6 0	6 0
	合 計	3 5 3	2 1 2 2

表8 令和5年度 講師派遣等実績

所属	職名	氏名	従事団体名	場所	内容	従事日（始期）	従事日（終期）
4C	主任	大久保 敦子	熊谷市医師会看護専門学校	熊谷市	講師	2023/6/2	2023/6/15
ICU	看護師	岩田 由美子	埼玉県立高等看護学院	熊谷市	講師	2023/6/6	2023/6/13
3東	主査	笠井 美穂	埼玉県立高等看護学院	熊谷市	講師	2023/6/19	2023/6/28
4東	看護師	藤井 基広	埼玉県立高等看護学院	熊谷市	講師	2023/6/1	2023/6/20
透析	主任	林 恵子	埼玉県立高等看護学院	熊谷市	講師	2023/6/2	2023/6/30
患サポ	主幹	山戸 千枝	埼玉県立高等看護学院	熊谷市	講師	2023/8/22	2023/8/29
患サポ	主幹	山戸 千枝	埼玉県立高等看護学院	熊谷市	講師	2023/9/20	2023/9/20
看護部	副病院長兼看護部長	高橋 陽子	埼玉県立高等看護学院	熊谷市	講師	2023/9/8	2023/11/24
患サポ	主幹	山戸 千枝	熊谷市医師会看護専門学校	熊谷市	講師	2023/9/5	2023/10/6
CCU	主任	宮尾 真奈美	熊谷市医師会看護専門学校	熊谷市	講師	2023/9/15	2023/10/17
外来	看護師	木村 めぐみ	上尾中央医科グループキャリアサポートセンター	上尾市	講師	2023/9/22	2023/9/22
看護部	副病院長兼看護部長	高橋 陽子	埼玉県看護協会	さいたま市	講師	2023/10/4	2023/10/27
RCU	師長	下田 純子	秩父看護専門学校	秩父市	講師	2023/10/26	2023/10/26
外来	看護師	木村 めぐみ	埼玉県老人福祉施設協議会	行田市	講師	2023/7/20	2023/7/20
手術室	師長	鈴木 理子	埼玉手術室情報交換会	さいたま市	講師	2023/7/23	2023/7/23
外来	看護師	木村 めぐみ	埼玉県看護協会	熊谷市	講師	2023/11/8	2023/11/8
看護部	副病院長兼看護部長	高橋 陽子	埼玉県立高等看護学院	熊谷市	講師	2023/9/11	2023/9/11
CCU	主任	宮尾 真奈美	埼玉県看護協会	東松山市	講師	2023/11/14	2023/11/14
外来	看護師	木村 めぐみ	埼玉県看護協会	深谷市	講師	2023/12/15	2023/12/15
ICU	看護師	野口 雅子	埼玉県看護協会	深谷市	講師	2023/11/22	2023/11/23
ICU	看護師	野口 雅子	東都大学	深谷市	講師	2023/11/13	2023/11/13
CCU	主任	宮尾 真奈美	東都大学	深谷市	講師	2023/11/24	2023/11/24
4西	師長	立花 亜紀子	坂戸鶴ヶ島医師会立看護専門学校	坂戸市	講師	2023/11/13	2023/11/29
看護部	副部長	岡崎 智美	坂戸鶴ヶ島医師会立看護専門学校	坂戸市	講師	2023/11/6	2023/12/5
看護部	副部長	株崎 雅子	坂戸鶴ヶ島医師会立看護専門学校	坂戸市	講師	2023/11/10	2023/11/17
看護部	副部長	株崎 雅子	NPO法人日本家族関係・人間関係サポート協会	オンライン	講師	2023/11/19	2023/11/19
看護部	副部長	株崎 雅子	埼玉県看護協会	さいたま市	講師	2023/12/13	2024/1/19
3東	主査	笠井 美穂	上尾市医師会上尾看護専門学校	上尾市	講師	2024/1/29	2024/2/5
CCU	主任	宮尾 真奈美	上尾市医師会上尾看護専門学校	上尾市	講師	2024/1/18	2024/1/25
3東	主査	笠井 美穂	埼玉県看護協会	川越市	講師	2024/2/21	2024/2/21
3B	主任	大久保 敦子	埼玉県保健医療部	オンライン	講師	2024/2/27	2024/2/27
CCU	主任	宮尾 真奈美	埼玉県保健医療部	オンライン	講師	2024/2/27	2024/2/27
3東	主査	笠井 美穂	埼玉県保健医療部	オンライン	講師	2024/2/27	2024/2/27
看護部	副病院長兼看護部長	高橋 陽子	埼玉県立高等看護学院	熊谷市	講師	2024/3/13	2024/3/13
看護部	副部長	株崎 雅子	NPO法人日本家族関係・人間関係サポート協会	オンライン	講師	2024/3/2	2024/3/2
4西	師長	立花 亜紀子	日本感染管理ネットワーク学会	東京都	委員	2022/5/20	2023/5/31
4東	主任	吉田 仁美	日本慢性看護学会学術集会	神奈川県	委員	2022/2/1	2023/9/30
3C	師長	関口 宏子	埼玉県看護協会秩父・北部地区	寄居町等	委員	2023/4/1	2025/3/31
A4	主任	幸田 真由美	埼玉県看護協会秩父・北部地区	寄居町等	委員	2023/4/1	2025/3/31
看護部	副部長	棚倉 玲子	埼玉県看護協会	さいたま市	委員	2022/6/28	2025/6/16
看護部	副病院長兼看護部長	高橋 陽子	埼玉県看護協会	さいたま市	委員	2022/6/28	2024/6/15
看護部	副部長	株崎 雅子	NPO法人日本家族関係・人間関係サポート協会	オンライン	理事	2022/7/1	2024/6/30

令和 5 年度 年間食種別食数表

(単位：食)

食 種	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合 計	構成比 (%)
一般食														
常食菜	3,606	3,915	4,102	4,531	5,378	4,472	5,345	5,289	4,749	4,836	4,528	3,790	54,541	26.8
軟菜	1,106	1,022	1,017	990	1,597	1,345	1,109	924	1,086	1,807	1,711	1,470	15,184	7.5
分菜	693	654	575	577	616	460	498	468	677	299	619	673	6,809	3.3
流動菜	7	16	17	2	11	0	1	13	15	7	20	0	109	0.1
濃厚流動食	1,232	1,007	1,141	1,099	764	903	770	836	872	1,402	1,569	1,629	13,224	6.5
嚥下食	1,047	922	846	675	469	732	657	490	586	1,027	1,031	822	9,304	4.6
一般術後食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
遅食	171	185	228	204	263	134	223	214	219	225	186	192	2,444	1.2
その他	0	0	0	0	0	0	0	10	71	89	145	30	345	0.2
小 計	7,862	7,721	7,926	8,078	9,098	8,046	8,603	8,244	8,275	9,692	9,809	8,606	101,960	50.1
特別食														
塩分コントロール食	1,371	1,443	1,331	1,487	1,250	1,468	1,900	1,518	1,271	2,095	1,484	1,653	18,271	9.0
エネルギーコントロール食	604	817	479	742	435	422	404	438	328	480	453	479	6,081	3.0
塩分エネルギー食	5,232	5,777	5,183	4,585	4,919	4,677	4,105	5,366	5,779	4,614	4,587	5,367	60,191	29.6
腎臓食	620	493	417	711	719	554	529	554	659	952	743	889	7,840	3.9
透析食	391	456	589	634	511	367	674	593	497	657	613	756	6,738	3.3
脂質コントロール食	10	10	0	25	12	0	12	0	34	36	12	57	208	0.1
潰瘍食	29	40	4	0	0	38	74	111	88	37	66	45	532	0.3
上部消化食	52	0	58	11	0	0	0	30	13	63	2	109	338	0.2
下部消化食	154	84	246	103	85	37	133	83	94	86	258	100	1,463	0.7
検査食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
小 計	8,463	9,120	8,307	8,298	7,931	7,563	7,831	8,693	8,763	9,020	8,218	9,455	101,662	49.9
合 計	16,325	16,841	16,233	16,376	17,029	15,609	16,434	16,937	17,038	18,712	18,027	18,061	203,622	100.0

(単位：人)

給食者延数	6,013	6,214	6,042	6,067	6,335	5,832	6,101	6,298	6,414	6,802	6,647	6,638	75,463	
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	--

令和５年度 栄養指導実施状況

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計	構成比	
個人指導	糖尿病	入院 外来 入院非加算 外来非加算	4 1 2 1	8 2 1 1	5 1 1 1	1 2 1 1	3 6 1 1	0 1 1 1	4 1 1 1	2 3 3 1	4 3 1 1	1 2 1 2	5 5 1 1	37 28 1 0	66	4.4	
	心臓	入院 外来 入院非加算 外来非加算	34 13 1 1	28 25 1 1	29 21 1 1	20 13 2 1	17 20 1 1	21 18 2 1	24 11 2 1	24 14 2 1	41 11 1 1	24 6 1 2	29 7 2 1	35 16 2 1	326 175 13 2	516	34.3
	脂質異常症	入院 外来 入院非加算 外来非加算		3		2 4	1 2		1 1	1 1		2		4 13 0 0	17	1.1	
	高血圧	入院 外来 入院非加算 外来非加算	4 3 1 1	3 1 1 1	5 1 1 1	4 2 1 1	1 2	2 2	3 2 3	6 1 3	4 3 4	5 2 4	1 2 2	1 4 4	39 23 8 0	70	4.7
	消化器疾患	入院 外来 入院非加算 外来非加算			1			1			1				3 0 0 0	3	0.2
	腎臓病	入院 外来 入院非加算 外来非加算	5 22 1 1	2 21 1 1	3 30 1 2	8 29 1 2	4 27 1 1	2 24 1 1		8 19 1 1	7 15 1 1	7 12 1 1	4 24 1 1	6 14 1 8	56 255 2 8	321	21.3
	肝臓病	入院 外来 入院非加算 外来非加算													0 0 0 0	0	0.0
	肥満症	入院 外来 入院非加算 外来非加算					1 1				1				0 2 1 0	3	0.2
	脾臓病	入院 外来 入院非加算 外来非加算													0 0 0 0	0	0.0
	痛風	入院 外来 入院非加算 外来非加算													0 0 0 0	0	0.0
	貧血	入院 外来 入院非加算 外来非加算													0 0 0 0	0	0.0
	検査食	入院 外来 入院非加算 外来非加算													0 0 0 0	0	0.0
	脳疾患	入院 外来 入院非加算 外来非加算													0 0 0 0	0	0.0
	がん	入院 外来 入院非加算 外来非加算	1 1 1 1		1 1 1 1	1 1 1 1	1 1 1 1	1 1 1 1		2 4 1 1	4 1 1 1	1 2 1 1	1 1 1 1	13 4 0 1	18	1.2	
	摂食嚥下機能低下	入院 外来 入院非加算 外来非加算		1 1 1 1		1 1 1 1		1 1 1 1	1 1 1 1		1 1 1 1	1 1 1 1		1 1 1 1	4 3 2 1	10	0.7
	低栄養	入院 外来 入院非加算 外来非加算		1 1 1 1		2 1 1 1	1 1 1 1	1 3 1 1			1 1 1 1	1 1 1 1			5 8 1 0	14	0.9
	その他	入院 外来 入院非加算 外来非加算										2 2 2 2			0 0 2 2	467	31.0
	個人指導小計	入院 外来 入院非加算 外来非加算	48 43 1 34	42 50 1 33	44 53 0 42	39 51 4 46	28 59 2 36	28 46 2 43	32 34 5 44	42 38 3 36	62 33 1 38	40 28 7 38	35 35 2 45	47 41 2 42	487 511 30 477	1,505	100.0
集団指導	心不全	入院 外来 入院非加算 外来非加算 実施回数												0 0 0 0 0	0	0.0	
	カテバス	入院 外来 入院非加算 外来非加算 実施回数												0 0 0 0 0	0	0.0	
	COPD	入院 外来 入院非加算 外来非加算 実施回数												0 0 0 0 0	0	0.0	
	集団小計	入院 外来 入院非加算 外来非加算 実施回数	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0 0 0 0 0	0	0.0
	合計		126	126	139	140	125	119	115	119	134	113	117	132	1505	1505	

第2章 会計業務統計（事業会計）

（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）

第1表 比較損益計算書

区 分	令 和 5 年 度		令 和 4 年 度		前 年 度 対 比	
	金 額	構成比率	金 額	構成比率	増 減 額	比 率
営業収益	14,506,601,076 円	99.6 %	15,490,162,407 円	99.6 %	-983,561,331 円	93.7 %
医業収益	10,639,788,241	73.0	9,479,918,242	60.9	1,159,869,999	112.2
入院収益	8,569,121,390	58.8	7,515,953,161	48.3	1,053,168,229	114.0
外来収益	1,917,685,104	13.2	1,827,419,135	11.7	90,265,969	104.9
その他医業収益	152,981,747	1.1	136,545,946	0.9	16,435,801	112.0
運営費負担金収益	3,382,991,000	23.3	3,329,392,000	21.5	53,599,000	101.6
運営費交付金収益	0	0.0	0	0.0	0	-
補助金等収益	290,131,000	2.0	2,527,735,000	16.2	-2,237,604,000	11.5
寄付金収益	0	0.0	0	0.0	0	-
資産見返負債戻入	193,690,835	1.3	153,117,165	1.0	40,573,670	126.5
営業外収益	58,871,809	0.4	68,307,200	0.4	-9,435,391	86.2
運営費負担金収益	24,808,000	0.2	36,738,000	0.2	-11,930,000	67.5
財務収益	100	0.0	3	0.0	97	3,333.3
その他営業外収益	34,063,709	0.2	31,569,197	0.2	2,494,512	107.9
臨時利益	0	0.0	0	0.0	0	-
過年度損益修正益	0	0.0	0	0.0	0	-
その他臨時利益	0	0.0	0	0.0	0	-
収 益 合 計	14,565,472,885	100.0	15,558,469,607	100.0	-992,996,722	93.6
営業費用	14,407,015,202 円	95.0 %	13,828,318,600 円	94.9 %	578,696,602	104.2 %
医業費用	14,407,015,202	95.0	13,828,318,600	94.9	578,696,602	104.2
給与費	6,770,266,742	44.6	6,567,438,742	45.1	202,828,000	103.1
材料費	4,096,437,437	27.0	3,680,804,398	25.3	415,633,039	111.3
経費	2,277,145,171	15.0	2,215,577,409	15.2	61,567,762	102.8
減価償却費	1,210,696,117	8.0	1,316,204,366	9.0	-105,508,249	92.0
研究研修費	52,469,735	0.3	48,293,685	0.3	4,176,050	108.6
営業外費用	779,786,182	5.0	744,844,564	5.1	34,941,618	104.7
財務費用	44,429,048	0.3	64,151,821	0.4	-19,722,773	69.3
雑支出	47,761	0.0	0	0.0	47,761	-
控除対象外消費税	735,309,373	4.7	680,692,743	4.6	54,616,630	108.0
臨 時 損 失	0	0.0	2,752,958	0.0	-2,752,958	-
費 用 合 計	15,186,801,384	100.0	14,575,916,122	100.0	610,885,262	104.2
当期純利益	-621,328,499	-	982,553,485	-	-1,603,881,984	-

第2表 比較貸借対照表

区 分	令 和 5 年 度		令 和 4 年 度	
	金 額	構成比率	金 額	構成比率
資産	円	%	円	%
固定資産	13,243,210,838	71.6	13,649,776,424	71.4
有形固定資産	12,705,676,326	68.7	13,038,967,148	68.2
無形固定資産	34,403,152	0.2	51,467,090	0.3
投資その他の資産	503,131,360	2.7	559,342,186	2.9
流動資産	5,251,255,911	28.4	5,479,710,493	28.6
現金及び預金	3,073,264,495	16.6	3,479,925,671	18.2
未収金	2,038,450,911	11.0	1,882,056,288	9.8
貸倒引当金	-6,169,170	0.0	-5,937,311	0.0
たな卸資産	145,130,478	0.8	123,086,648	0.6
前払費用	579,197	0.0	579,197	0.0
資 産 合 計	18,494,466,749	100.0	19,129,486,917	100.0
負債及び資本	円	%	円	%
負債	16,323,198,131	88.3	16,336,889,800	85.5
固定負債	12,625,169,525	68.3	13,359,105,223	69.8
流動負債	3,698,028,606	20.0	2,977,784,577	15.6
資本	2,171,268,618	11.7	2,792,597,117	14.5
資本金	-455,417,955	-2.5	-455,417,955	-2.4
利益剰余金	2,626,686,573	14.2	3,248,015,072	17.0
負債・資本合計	18,494,466,749	100.0	19,129,486,917	100.0

第3表 収益的収入及び支出（消費税込み）

科 目	現計予算額 (A)	決算額 (B)
	円	円
営業収益	15,763,875,000	14,513,715,001
医業収益	12,211,641,000	10,646,902,166
入院収益	9,508,269,000	8,561,111,207
外来収益	2,504,218,000	1,917,721,325
その他医業収益	199,154,000	168,069,634
運営費負担金収益	3,373,679,000	3,382,991,000
補助金等収益	852,000	290,131,000
資産見返負債戻入	177,703,000	193,690,835
営業外収益	54,877,000	63,370,682
運営費負担金収益	27,118,000	24,808,000
財務収益	0	100
その他営業外収益	27,759,000	38,562,582
臨時利益	0	0
過年度損益修正益	0	0
その他特別利益	0	0
営業費用	15,930,180,538	15,106,665,086
医業費用	15,930,180,538	15,106,665,086
給与費	6,875,477,025	6,850,988,625
材料費	4,855,863,000	4,506,604,145
経 費	2,899,459,513	2,482,851,869
減価償却費	1,227,878,000	1,210,696,117
研究研修費	71,503,000	55,524,330
営業外費用	171,240,795	170,137,562
財務費用	45,512,741	44,429,048
雑支出	48,333	47,761
控除対象外消費税	116,713,000	116,697,532
消費税及び地方消費税	8,966,721	8,963,221
臨時損失	1,000,000	0
固定資産除却損	1,000,000	0
予備費	0	0

第4表 資本的収入、資本的支出及びたな卸資産購入限度額（消費税込み）

科 目	現計予算額 (A)	決算額 (B)	差 引 収入 (B) - (A) ; 支出 (A) - (B)
	円	円	円
資本的収入	1,612,658,000	1,647,258,000	34,600,000
長期借入金	797,000,000	832,000,000	35,000,000
運営費負担金収入	815,658,000	815,258,000	-400,000
運営費交付金収入	0	0	0
補助金等収入	0	0	0
工事負担金収入	0	0	0
寄付金収入	0	0	0
出資金	0	0	0
その他資本的収入	0	0	0
資本的支出	2,285,219,435	2,185,836,780	99,382,655
建設改良費	790,394,600	691,011,945	99,382,655
施設増改築工事費	16,500,000	16,500,000	0
資産購入費	773,894,600	674,511,945	99,382,655
償還金	1,494,824,835	1,494,824,835	0
企業債償還金	0	0	0
たな卸資産購入限度額	5,020,854,000	1,168,479,532	3,852,374,468

第5表 医業収益に対する医業費用の比率（税抜）

（単位：％）

区 分	合 計	給与費	材料費	経 費	減価償却費	研究研修費
令和5年度	135.4	63.6	38.5	21.4	11.4	0.5
令和4年度	145.9	69.3	38.8	23.4	13.9	0.5

